

第2次芦屋市地域福祉計画の実施プラン票

[個人名 許 和子]

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること (27年度)	今後取り組みたいこと (28年度)	連携・協働したらできること (28年度)	取組状況	今取り組んでいること (28年度)	今後取り組みたいこと (29年度)	連携・協働したらできること (29年度)	取組状況
1 地域福祉への関心と理解を広げます	1-1) 地域福祉の呼びかけ *地域福祉は、一人ひとりの暮らしに関わるものだということを伝えあいます。 <キーワード> ・問題への気づきをうながす	人と人がつながるには家族一夫婦、親子が仲良くしていることが大切。その逆も言える。実際、自分への反省がよくなった。	さらに家族との絆を深め、自分磨きを進めたい。	特になし	◎	地域福祉は家族融和のための家族教育も大切な要素であるので、そのための学びを深める。	さらに家族教育の学習を深める		○
	1-2) 学習と話しあいの推進 *学校、公民館、地域、職場等のさまざまなところで地域福祉について学び、考えます。 <キーワード> ・自分のライフデザインを考える ・実践につながる学習を進める ・参加型、体験型の学習を進める ・地域の課題を知る、考える、話しあう <重点的に進める取組> ・地域福祉について学んだり、考えたりする機会を増やします	・イベントの開催。 ・親子教室の広がり。	さらに家族との絆を深め、自分磨きを進めたい教室が広がること。	ボランティアでもいたしますのでお教室が開催できましたらうれしく思います。	◎	・イベント開催 ・親子教室を広げていくこと	・ホームページ作成など ・行政、学校への働きかけができれば良い。		○
	1-3) 情報の発信・伝達 *地域福祉のさまざまな情報を発信します。 *必要な人に必要な情報が届くよう、きめ細かく伝えます。 *必要な情報を自分で得るように努力します。 <キーワード> ・いろいろな公民の情報を集める ・まとめて発信する ・双方向で発信する ・多様なメディアを活用する ・ICTの利用を促進する、使い方を広める、ルールをつくる ・身近な人が直接つなげる <重点的に進める取組> ・ICTも活用し、情報を細やかに伝える取組を進めます	特になし	特になし	特になし			・ホームページ作成など ・行政、学校への働きかけができれば良い。		△
す2 暮らしの“困りごと”を適切な支援につなげます	2-1) ニーズの気づき・発見 *生活の“困りごと”に早めに気づき、自分で対処したり、必要な支援を求める意識を高めます。 <キーワード> ・自らの気づきを支援する ・まわりの人が気づき、伝える ・さりげなく見守る、声をかける ・ひきこもりやセルフネグレクトの人に関わる ・隠れたニーズを探す <重点的に進める取組> ・“たすけ上手”や“たすけられ上手”な人を増やします	お教室の関係でたくさん相談を受けました。	地域を超えてまた、地域の中で一人ひとりの方が自立できるようほんの少しでも援護できましたらと思います。	特になし	○		今まで自分が体験したことをまとめていきます。		△
	2-2) 相談支援の充実 *身近なところで気軽に相談でき、アドバイスや支援をしたり、専門的な機関につなぐ取組を広げます。 <キーワード> ・身近に、いつでも相談できる ・いろいろな相談を受けて、つなぐ ・どこに、何を相談すれば良いかを知る ・「支えてもらってよい」ことを伝える ・当事者同士で相談する ・地域に向向いて相談する(アウトリーチ) <重点的に進める取組> ・総合相談の仕組みとネットワークを充実します	特になし	特になし	特になし					

第2次芦屋市地域福祉計画の実施プラン票

{ 個人名 許 和子 }

◎=よくできている
○=できている
△=もう少し

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること (27年度)	今後取り組みたいこと (28年度)	連携・協働したらできること (28年度)	取組状況	今取り組んでいること (28年度)	今後取り組みたいこと (29年度)	連携・協働したらできること (29年度)	取組状況
3 地域生活を支えるサービスや活動を充実します	<p>3-1) 福祉サービスの充実 *地域で自立して生活できるよう、多様なニーズに応える質の高い福祉サービスを提供します。 <キーワード> ・分野別計画に基づいて推進する ・エンパワメント(その人の力を引き出す)を支援する ・自己評価・第三者評価を推進する <重点的に進める取組> ・各分野別の地域福祉の視点で推進します</p>	特になし	特になし	特になし		勉強のために認知症施設、精神障がい者入所施設、訪問看護、クリニック等多くの場で経験を重ねる	訪問看護ステーションでの組織に参加する		○
	<p>3-2) 地域福祉活動の推進 *さまざまなニーズにきめ細かく応える多様な地域福祉活動をすすめるよう、一人ひとりが「できること」で参加し、多彩な人々に呼びかけて広げます。 <キーワード> ・分野別計画に基づいて推進する ・地域での”ちょっとした支えあい”を広げる ・さまざまな”困りごと”に解決策を考える ・先駆的な活動の事業化を進める ・福祉の仕事への関心を高める、就業環境を改善する <重点的に進める取組> ・担い手の意識やスキルを高める取組を充実する</p>	特になし	特になし	特になし			地域で母子が過ごすところが少ないと伺います。立ち寄れる場所があればいいなと思います。		△
	<p>3-3) 多様な連携による支援 *新たなニーズや困難な課題が起きたときはみんなで集まって話しあい、力をあわせて取り組みます。 <キーワード> ・コミュニティソーシャルワーク(地域を基盤とした社会福祉の援助)の機能を充実する ・他職種が連携する ・「Joint-Sheet」等を活用した連携を充実する ・共生型のサービスを増やす ・「社会福祉複合施設」を活用する ・新たな”困りごと”に対応する <重点的に進める取組> ・“複雑な困りごと”の解決に向けた取組を充実します</p>	特になし	特になし	特になし		地域福祉は大変な事務作業を市民がやってこそ成り立つと学びました(一部)いつも様々な事務作業をしてくださることに本当に感謝いたします。	多種機関と連携して包括的支援ができれば理想的だと思います。	芦屋市はトータルサポートが進んでいるので、さらに、インフォーマルな組織としてつながれたらいいなと思います。	△
4 権利をまもる取組を充実します	<p>4-1) 権利擁護の意識づくり *お互いのニーズを理解し、権利を尊重して生活する意識を高めます。 <キーワード> ・「権利」を自分のこと(してほしいこと、してほしくないこと)こととして考える ・一人ひとりの多様性を大切にする ・身近な地域での権利擁護支援を推進する</p>	成年後見制度ではたくさんの不正が発覚し、見直しが必要になっています。意識改革や改善にむけて声をあげていく。	成年後見制度ではたくさんの不正が発覚し、見直しが必要になっています。意識改革や改善にむけて声をあげていく。	特になし	△				
	<p>4-2) 権利侵害・虐待対応の充実 *権利侵害や虐待を予防するための支援と迅速・的確な対応を、地域の力をあわせてすすめます。 <キーワード> ・弱い立場になりがちな人の暮らし”困りごと”を支える ・障がいのある人などへの「合理的配慮」(場面に応じた調整など)を理解し、進める ・専門職団体等と連携する</p>	今はまだ身近の方々、お知り合いの方にだけ講座を提供しています。	さらに広がりをもっとほしいと思います。	特になし		○	合理的配慮のための教育や環境づくりがいろいろあります。		△
	<p>4-3) 後見的支援の充実 *判断能力が不十分な人が自立した生活ができるよう、支援します。 <キーワード> ・市民後見人、法定後見機関等を増やす ・可能な限り本人が意思決定できるように支援する</p>	特になし	特になし	特になし。					

第2次芦屋市地域福祉計画の実施プラン票

[個人名 許 和子]

◎=よくできている
○=できている
△=もう少し

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること (27年度)	今後取り組みたいこと (28年度)	連携・協働したらできること (28年度)	取組状況	今取り組んでいること (28年度)	今後取り組みたいこと (29年度)	連携・協働したらできること (29年度)	取組状況	
5 人 と 人 の つ な が り を 広 げ ま す	<p>5-1) 地域でのつながりづくり</p> <p>*あいさつや交流を積極的に行い、困ったときにはたすけあえるつながりと“絆”を広げます。</p> <p>*地域で支えあうために必要な個人情報の共有について、話し合いをすすめます。</p> <p><キーワード></p> <ul style="list-style-type: none"> 自治会、町内会の活動を支援する、参加を呼びかける マンション等でも取り組む 多様な世代や属性の人が交流する、ゆるやかにつながる ひとりぼっちをつくらない ”誰かとどこかで”つながる つなぎ役やファシリテーター（おせっかい）を増やす 地域の課題を地域で解決する 福祉への関心と活動を活かした「福祉でまちづくり」をすすめる 	<p>地域社会の希薄化が言われますが、さらに地域を超えたつながりも大切にしていってほしいのではと考えています。様々な場所でイベントなど行っています。</p>	<p>親子でも、ものづくり教室や共に楽しめるイベントの仕掛けづくり。</p>	<p>何年か、何十年か先に多くの地域で少子化により地域の在り方は変化していきま</p> <p>す。</p> <p>その時地域を超えたつながりや連携・助け合いもありだと思</p> <p>います。</p>	△	<p>ACワークを経験してきた。</p>	<p>今までたくさんのつらい経験をされた方によるピアサポートのシステムを支援したいと思います。</p>		△	
6 安 心 ・ 安 全 で バ リ ア の な い 生 活 環 境 を つ く り ま す	<p>6-1) 災害時の支援</p> <p>*災害時にだれもが安全に避難できるよう、日頃から準備をすすめます。</p> <p><キーワード></p> <ul style="list-style-type: none"> いざというときのためのつながりをつくる 情報の伝達、安否確認の仕組みをつくる <p>多様なニーズに対応できる避難所（地域の避難所、福祉避難所）を確保する</p> <ul style="list-style-type: none"> 平常時からの取組を進める 	特になし	特になし	特になし						
	<p>6-2) バリアフリーのまちづくり</p> <p>*だれもが安心して快適に外出し、社会参加ができる環境をつくれます。</p> <p><キーワード></p> <ul style="list-style-type: none"> 公共交通や移送サービスを充実する バリアフリーの情報を発信する 出前型のサービスなどの推進 	特になし	特になし	特になし		<p>様々な施設のそのつくりや構造を実際に使ってみて体験する。</p>	<p>リフォームや新しく建物をつくるときはバリアフリーにこだわりたいと思</p> <p>います。</p>		○	
	<p>6-3) 防犯・交通安全の推進</p> <p>*犯罪や事故のない安全なまちを、地域の力をあわせてつくり</p> <p>ます。</p> <p><キーワード></p> <ul style="list-style-type: none"> 気づいた人が声をかける 	特になし	特になし	特になし						
	<p>6-4) 住環境の充実</p> <p>*犯罪や事故のない安全なまちを、地域の力をあわせてつくり</p> <p>ます。</p> <p><キーワード></p> <ul style="list-style-type: none"> ニーズに応じて計画的に整備する 	特になし	特になし	特になし						

第2次芦屋市地域福祉計画の実施プラン票

[個人名 許 和子]

◎=よくできている
○=できている
△=もう少し

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること (27年度)	今後取り組みたいこと (28年度)	連携・協働したら できること (28年度)	取組 状況	今取り組んでいること (28年度)	今後取り組みたいこと (29年度)	連携・協働したら できること(29年 度)	取組 状況
7. 地域福祉の活動を支えるしくみを充実します	<p>7-1) 活動拠点の充実 *地域の多様な資源を活かして、利用しやすい活動拠点を増やします。 <キーワード> ・地域内外の資源を有効に活用する ・社会貢献を進める <重点的に進める取組> 身近な「つながりの拠点」づくりを進めます</p>	借りられる場所を探したり、他の団体のお話を聞いたりしています。	今後は他の団体ともつながりながら少しずつ広がりを見せたいと思います。	特になし	○				
	<p>7-2) 活動財源の確保 *地域福祉活動への参加としての“寄附文化”を広げながら、多様な方法で活動の財源を生み出します。 <キーワード> ・寄附文化を広げる ・目的に応じた寄附の呼びかけや仕組みづくりを進める</p>	特になし	特になし	特になし					
	<p>7-3) 活動への支援 *“楽しく”, “しっかり”活動できるよう支援するしくみと取組を充実します。 <キーワード> ・楽しく気軽にできる活動を増やす ・有償の活動やコミュニティビジネスも進める ・仕事などの経験、能力を活かした活動を進める ・新たな活動やグループづくりを支援する ・コミュニティワーク(地域福祉活動支援)を充実する <重点的に進める取組> ・「ひとり一役運動」を推進し、気軽に参加できる機会を増やします ・健康づくりや生きがいづくりの活動を進めます</p>	特になし	特になし	特になし		組織の在り方で人はやる気がでたり、でなかったりすることがわかりました。組織の在り方は大切だなと思います。		△	
	<p>7-4) 協働活動・事業の推進 *“公と民”, “民と民”の多様な協働で、具体的な活動や事業をすすめます。 <キーワード> ・地域間で連携する ・NPOや事業者等との連携を推進する ・公民協働、市民と専門職等の協働による活動、事業を推進する ・行政内の協働、連携を推進する ・地域福祉推進計画との連動する</p>	特になし	人は共に話し、共に食し、共に(飲み)、共に買い物して仲良くなる、分かり合えるといいです。もっと食し、話し合える場・時間を持ち、協議していけたら素晴らしいと思います。	そういった場、時間を作られます時はお手伝いいたします。	△				
	<p>7-5) ネットワークの充実 *地域のさまざまな人々が出会い、協議し協働するしくみを充実します。 <キーワード> ・地域福祉計画を周知する ・各々の「実施プラン」を持ち寄り、共有する <重点的に進める取組> 「地域発信型ネットワーク」を充実します</p>	特になし	特になし	特になし					

第2次芦屋市地域福祉計画の実施プラン票

〔 団体名 身体障害者福祉協会 〕

◎=よくできている
○=できている
△=もう少し

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること (27年度)	今後取り組みたいこと (28年度)	連携・協働したらできること (28年度)	取組状況	今取り組んでいること (28年度)	今後取り組みたいこと (29年度)	連携・協働したらできること (29年度)	取組状況
1. 地域福祉への関心と理解を広げます	1-1) 地域福祉の呼びかけ * 地域福祉は、一人ひとりの暮らしに関わるものだということを伝えあいます。 <キーワード> ・問題への気づきをうながす	年4回(28号から31号)の会報発行で障がいを持つ仲間の生活ぶりを具体的に伝えることができました。	継続		◎	会報「身障協会だより」を第32号(5月発行)第33号(9月)第34号(12月)第35号(3月予定)を会員に届けて、助け合う仲間であるというメッセージを発信。	身体障がい者に関する情報をいただけるよう会として、あるいは個人としても他の障がい者団体、行政へのネットワークを広げたい。	福祉部全体、芦障連、社協	◎
	1-2) 学習と話しあいの推進 * 学校、公民館、地域、職場等のさまざまなところで地域福祉について学び、考えます。 <キーワード> ・自分のライフデザインを考える ・実践につながる学習を進める ・参加型、体験型の学習を進める ・地域の課題を知る、考える、話しあう <重点的に進める取組> ・地域福祉について学んだり、考えたりする機会を増やします	聴覚部では芦屋市の出前講座によって「マイナンバー制度」を学んだ。その学びは会報にまとめを掲載して全会員に伝えた。	特になし	特になし	◎	年4回発行の会報では届けられない時期の勉強会、イベントなどの情報は、会員の寄附である青い鳥はがきを使って発信。	継続	郵便局	◎
	1-3) 情報の発信・伝達 * 地域福祉のさまざまな情報を発信します。 * 必要な人に必要な情報が届くよう、きめ細かく伝えます。 * 必要な情報を自分で得るように努力します。 <キーワード> ・いろいろな公民の情報を集める ・まとめて発信する ・双方向で発信する ・多様なメディアを活用する ・ICTの利用を促進する、使い方を広める、ルールをつくる ・身近な人が直接つなげる <重点的に進める取組> ・ICTも活用し、情報を細やかに伝える取組を進めます	・毎月の役員会では、障がい者に必要な情報交換をして、必要なら会報で伝えている。問題解決には行政や社協や警察などに相談している。 ・例年のジパング倶楽部更新手続き、青い鳥はがき申請など記事にしている。 ・「ロービジョン サポートフェア in 芦屋」を開催。市内外から200名の来場者。視覚障がい者に有益な情報をお渡しできた。障害福祉課の協力で全視覚障がい者に案内が出せた。会場への誘導は地域福祉課、障害福祉課、ボランティア連絡会のご協力を頂いた。	継続。 小さな規模で継続。	社協、		保健福祉フェアにおいて、視覚障がい者への理解を深めていただく目的で、点字用紙のリユースの封筒やポチ袋を作成し配布。メールアドレス登録をしている会員にはメールで情報発信をしている。150名中50名。		福祉部全体、社協、点字友の会	◎
ま2す。暮らしの“困りごと”を適切な支援につなげ	2-1) ニーズの気づき・発見 * 生活の“困りごと”に早めに気づき、自分で対処したり、必要な支援を求める意識を高めます。 <キーワード> ・自らの気づきを支援する ・まわりの人が気づき、伝える ・さりげなく見守る、声をかける ・ひきこもりやセルフネグレクトの人に関わる ・隠れたニーズを探す <重点的に進める取組> ・“たすけ上手”や“たすけられ上手”な人を増やします	外出時、災害時に聴覚や視覚障がい者が使用する「耳マークバッジ」「目が不自由ですバッジ」を作成。後者は茶屋之町のお祭りでの地域福祉課アクションプログラム売上金の寄附で作成。	特になし	地域福祉課	◎	「平成28年度障がいを理由とする差別の解消の推進に係るプロジェクトチーム」に参加して身体の障がいについて話して理解を求めた。前年に続き、地域福祉課アクション推進プログラム協議会の寄附金によって耳マークバッジを芦屋市に住む聴覚障がい者220名ほどに配布する予定。	継続	障害福祉課、地域福祉課	◎
	2-2) 相談支援の充実 * 身近なところで気軽に相談でき、アドバイスや支援をしたり、専門的な機関につなぐ取組を広げます。 <キーワード> ・身近に、いつでも相談できる ・いろいろな相談を受けて、つなぐ ・どこに、何を相談すれば良いかを知る ・「支えてもらってよい」ことを伝える ・当事者同士で相談する ・地域に出向いて相談する(アウトリーチ) <重点的に進める取組> ・総合相談の仕組みとネットワークを充実します	視覚障がい者が自主的にピアサポート養成講座を受けた。		障害福祉課	◎	「聞こえ」の啓発イベントに参加予定。身障協会は視覚、聴覚、肢体、内部の障がい者の集まりであるので、互いの障がいを理解して支え合いたいという意識が芽生えたのではと推察。	継続	社協、ろうあ協会、手話通訳、要約筆記	◎

第2次芦屋市地域福祉計画の実施プラン票

〔 団体名 身体障害者福祉協会 〕

◎=よくできている
○=できている
△=もう少し

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること (27年度)	今後取り組みたいこと (28年度)	連携・協働したらできること (28年度)	取組状況	今取り組んでいること (28年度)	今後取り組みたいこと (29年度)	連携・協働したらできること (29年度)	取組状況
3. 地域生活を支えるサービスや活動を充実します	<p>3-1) 福祉サービスの充実 *地域で自立して生活できるよう、多様なニーズに応える質の高い福祉サービスを提供します。 <キーワード> ・分野別計画に基づいて推進する ・エンパワメント(その人の力を引き出す)を支援する ・自己評価・第三者評価を推進する <重点的に進める取組> ・各分野別の地域福祉の視点で推進します</p>	特になし	特になし	特になし					
	<p>3-2) 地域福祉活動の推進 *さまざまなニーズにきめ細かく応える多様な地域福祉活動をすすめるよう、一人ひとりが「できること」で参加し、多彩な人々に呼びかけて広げます。 <キーワード> ・分野別計画に基づいて推進する ・地域での”ちょっとした支えあい”を広げる ・さまざまな”困りごと”に解決策を考える ・先駆的な活動の事業化を進める ・福祉の仕事への関心を高める、就業環境を改善する <重点的に進める取組> ・担い手の意識やスキルを高める取組を充実する</p>	特になし	特になし	特になし		木口記念会館で開催された「アート フェスタ 2016」を会員に案内。	障がいが異なっても、他の団体であっても、障がいへの理解を深めるために知り得る限りご案内予定。	木口福祉財団、障害福祉課	◎
	<p>3-3) 多様な連携による支援 *新たなニーズや困難な課題が起きたときはみんなで集まって話しあい、力をあわせて取り組みます。 <キーワード> ・コミュニティソーシャルワーク(地域を基盤とした社会福祉の援助)の機能を充実する ・他職種が連携する ・「Joint-Sheet」等を活用した連携を充実する ・共生型のサービスを増やす ・「社会福祉複合施設」を活用する ・新たな”困りごと”に対応する <重点的に進める取組> ・“複雑な困りごと”の解決に向けた取組を充実します</p>	特になし	特になし	特になし					
4. 権利をまもる取組を充実します	<p>4-1) 権利擁護の意識づくり *お互いのニーズを理解し、権利を尊重して生活する意識を高めます。 <キーワード> ・「権利」を自分のこと(してほしいこと、してほしくないこと)こととして考える ・一人ひとりの多様性を大切にする ・身近な地域での権利擁護支援を推進する</p>	権利擁護支援者養成講座終了後にその体験を会報に掲載した。	継続	社会福祉協議会	◎	身体障がい者が普通に地域で暮らすための理解を進めるため、小学校、中学校で生徒たちに視覚障がい、聴覚障がいの理事が話をした。また、他の理事は車いす体験、白杖・アイマスク体験の福祉授業の手伝いをした。	継続	社協、障害福祉課	◎
	<p>4-2) 権利侵害・虐待対応の充実 *権利侵害や虐待を予防するための支援と迅速・的確な対応を、地域の力をあわせてすすめます。 <キーワード> ・弱い立場になりがちな人の暮らし”困りごと”を支える ・障がいのある人などへの「合理的配慮」(場面に応じた調整など)を理解し、進める ・専門職団体等と連携する</p>	・選挙管理委員会から視覚障がい者のスムーズな選挙行動の提案をいただき会報に掲載した。 ・講演会「虐待を許さない社会づくり」に参加した。	継続	選挙管理委員会	◎	「障害者差別解消法に関するアンケート」に協力。手話言語条例案の説明を受け意見を求められた。幼稚園、小学校、中学校の教育現場で手話教育を実現してほしい、そのためのカリキュラムを組んでいただきたいと要望。	J: COM芦屋などで、子どもたちの手話歌など放映してほしい。	教育委員会、社協ボランティア活動センター、J: COM芦屋	○
	<p>4-3) 後見的支援の充実 *判断能力が不十分な人が自立した生活ができるよう、支援します。 <キーワード> ・市民後見人、法定後見機関等を増やす ・可能な限り本人が意思決定できるように支援する</p>	特になし	特になし	特になし					

第2次芦屋市地域福祉計画の実施プラン票

〔 団体名 身体障害者福祉協会 〕

◎=よくできている
○=できている
△=もう少し

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること (27年度)	今後取り組みたいこと (28年度)	連携・協働したらできること (28年度)	取組状況	今取り組んでいること (28年度)	今後取り組みたいこと (29年度)	連携・協働したらできること (29年度)	取組状況
5 人 と 人 の つ な が り を 広 げ ま す	5-1) 地域でのつながりづくり *あいさつや交流を積極的に行い、困ったときにはたすけあえるつながりと“絆”を広げます。 *地域で支えあうために必要な個人情報の共有について、話し合いをすすめます。 <キーワード> ・自治会、町内会の活動を支援する、参加を呼びかける ・マンション等でも取り組む ・多様な世代や属性の人が交流する、ゆるやかにつながる ・ひとりぼっちをつくらない ・”誰かとどこかで”つながる ・つなぎ役やファシリテーター（おせっかい）を増やす ・地域の課題を地域で解決する ・福祉への関心と活動を活かした「福祉でまちづくり」をすすめる	お笑い英会話は継続 12月1日発行の広報あしや「障がい福祉特集号」には当会の活動をお知らせしている。	継続	木口福祉財団 障害福祉課 広報国際交流課	◎	・障がいのある人、高齢者、健常者共に楽しめるチャンバラを通じ健康増進を図るイベント「健チャラ」を企画、2月25日に開催予定。 ・地域の祭りや芦屋サマーカーニバルも会員に案内。健常者が集まる場所には必ず障がい者も顔を出していくことが望ましいと案内。 ・12月1日号「広報あしや」障がい福祉特集号で会員の集合写真付きで紹介。	継続	高齢介護課、地域福祉課、障害福祉課	◎
6 安 心 ・ 安 全 で バ リ ア の な い 生 活 環 境 を つ く り ま す	6-1) 災害時の支援 *災害時にだれもが安全に避難できるよう、日頃から準備をすすめます。 <キーワード> ・いざというときのためのつながりをつくる ・情報の伝達、安否確認の仕組みをつくる 多様なニーズに対応できる避難所（地域の避難所、福祉避難所）を確保する ・平常時からの取組を進める 6-2) バリアフリーのまちづくり *だれもが安心して快適に外出し、社会参加ができる環境をつくりまします。 <キーワード> ・公共交通や移送サービスを充実する ・バリアフリーの情報を発信する ・出前型のサービスなどの推進 6-3) 防犯・交通安全の推進 *犯罪や事故のない安全なまちを、地域の力をあわせてつくりまします。 <キーワード> ・気づいた人が声をかける 6-4) 住環境の充実 *犯罪や事故のない安全なまちを、地域の力をあわせてつくりまします。 <キーワード> ・ニーズに応じて計画的に整備する	防災安全課による「要配慮者支援ガイドブック」作成に協力。会員の意見を集約、人と防災・未来センターのパーソナル減災を見学をして具体的な提案をした。	継続	防災安全課	○	会報を通じて緊急要援護者台帳の登録を勧め、緊急告知ラジオを紹介。	継続	防災安全課、障害福祉課	○
		市役所庁舎東館のバリアフリーチェックに加わった。視覚部会員の要望を受けて市役所北側の誘導タイルが完全なものになったことを感謝している。	継続	都市計画課 道路課	◎	芦屋市立山手中学校建替え工事のバリアフリーに関する意見を視覚部理事と肢体部理事が現地に赴いて伝えた。		建築部	◎
		1 昨年、提出していた「音声信号機設置要望書」を補完するために、南芦屋浜の市営、県営住宅に住む住人の署名集めをした。	継続	芦屋警察署 都市計画課	◎	視覚部は市内の交通信号で音声が必要だと思われる設置場所を示し要望活動を継続。	継続	芦屋警察	◎
		芦屋市自立支援協議会、実務者会、専門部会にそれぞれ委員を出している。	継続	障害福祉課	○				

第2次芦屋市地域福祉計画の実施プラン票

〔 団体名 身体障害者福祉協会 〕

◎=よくできている
○=できている
△=もう少し

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること (27年度)	今後取り組みたいこと (28年度)	連携・協働したらできること (28年度)	取組状況	今取り組んでいること (28年度)	今後取り組みたいこと (29年度)	連携・協働したらできること (29年度)	取組状況
7. 地域福祉の活動を支えるしくみを充実します	7-1) 活動拠点の充実 * 地域の多様な資源を活かして、利用しやすい活動拠点を増やします。 <キーワード> ・地域内外の資源を有効に活用する ・社会貢献を進める <重点的に進める取組> 身近な「つながりの拠点」づくりを進めます	公光町在住の視覚部会員の住居1階部分を利用して地域の方が集える場にする企画が進行中である。	継続	障害福祉課、地域福祉課、社会福祉協議会、高齢介護課、自治会	△				
	7-2) 活動財源の確保 * 地域福祉活動への参加としての“寄附文化”を広げながら、多様な方法で活動の財源を生み出します。 <キーワード> ・寄附文化を広げる ・目的に応じた寄附の呼びかけや仕組みづくりを進める	1級2級の身体障害者手帳所持の会員には、申込書を同封して、青い鳥はがきを当会活動に寄贈して下さるようお願いしている。		郵便局	◎	兵庫県身体障害者福祉協会を通じて熊本地震の義援金を送付。		兵庫県身体障害者福祉協会	○
	7-3) 活動への支援 * “楽しく”, “しっかり” 活動できるよう支援するしくみと取組を充実します。 <キーワード> ・楽しく気軽にできる活動を増やす ・有償の活動やコミュニティビジネスも進める ・仕事などの経験、能力を活かした活動を進める ・新たな活動やグループづくりを支援する ・コミュニティワーク（地域福祉活動支援）を充実する <重点的に進める取組> ・「ひとり一役運動」を推進し、気軽に参加できる機会を増やします ・健康づくりや生きがいづくりの活動を進めます	会報では、会員の活躍ぶりを具体的に紹介をしている。市内小中学校で視覚や聴覚障がい福祉授業をした会員、全国障害者写真コンクールの銅賞受賞者、権利擁護支援講座、ピアサポーター講座、救急救命講座などの受講者、ピアノ・琴演奏者、落語家の卵などの紹介。	継続	特になし	◎	賛助会員募集をした。会員を通じて、身障協会の活動を応援して下さる方を募集。	継続	一般市民、行政	◎
	7-4) 協働活動・事業の推進 * “公と民”, “民と民” の多様な協働で、具体的な活動や事業をすすめます。 <キーワード> ・地域間で連携する ・NPOや事業者等との連携を推進する ・公民協働、市民と専門職等の協働による活動、事業を推進する ・行政内の協働、連携を推進する ・地域福祉推進計画との連動する	家族会の運賃助成を求める請願書に多くの会員が賛同して署名を行った。	継続	障害福祉課	◎	第3次芦屋市地域福祉計画の検討委員会に多くの視覚部理事が自主的に参加		地域福祉課	◎
	7-5) ネットワークの充実 * 地域のさまざまな人々が出会い、協議し協働するしくみを充実します。 <キーワード> ・地域福祉計画を周知する ・各々の「実施プラン」を持ち寄り、共有する <重点的に進める取組> 「地域発信型ネットワーク」を充実します	地域福祉課主催の市民会議に視覚部の会員が6名参加した。障がい者だけの会活動に留まらず参加されたことは、視覚障がい者の活動が確実に広がっていくと確信できたことだった。	継続	地域福祉課、障害福祉課、自治会、教育委員会、社会福祉協議会	◎				

第2次芦屋市地域福祉計画の実施プラン票

〔 団体名 芦屋ボランティア
連絡会 〕

◎=よくできている
○=できている
△=もう少し

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること (27年度)	今後取り組みたいこと (28年度)	連携・協働したら できること (28年度)	取組 状況	今取り組んでいること (28年度)	今後取り組みたいこと (29年度)	連携・協働したら できること (29年 度)	取組 状況
1 ・地域福祉への関心と理解を広げます	1-1) 地域福祉の呼びかけ *地域福祉は、一人ひとりの暮らしに関わるものだということを伝えあいます。 <キーワード> ・問題への気づきをうながす	研修会ということで知りたい題材を見つけ、会員の中での勉強会。	出来るだけ、外の多くの方々に活動を知っていただくため、魅力ある催しを開催したい。	地域福祉団体 市民活動団体		活動展、研修会を開催し、多くの方々に活動を知らせる			◎
	1-2) 学習と話しあいの推進 *学校、公民館、地域、職場等のさまざまなところで地域福祉について学び、考えます。 <キーワード> ・自分のライフデザインを考える ・実践につながる学習を進める ・参加型、体験型の学習を進める ・地域の課題を知る、考える、話しあう <重点的に進める取組> ・地域福祉について学んだり、考えたりする機会を増やします	市内小学校、中学校で定期的に福祉授業を開催。	左に同じ。	教育委員会、学校	◎	市内小・中学校、一般企業での福祉授業を開始あ			◎
	1-3) 情報の発信・伝達 *地域福祉のさまざまな情報を発信します。 *必要な人に必要な情報が届くよう、きめ細かく伝えます。 *必要な情報を自分で得るように努力します。 <キーワード> ・いろいろな公民の情報を集める ・まとめて発信する ・双方向で発信する ・多様なメディアを活用する ・ICTの利用を促進する、使い方を広める、ルールをつくる ・身近な人が直接つなげる <重点的に進める取組> ・ICTも活用し、情報を細やかに伝える取組を進めます	イベントの開催を市民の方々に少しでも広く知らせる。	平素は会得できないような内容の講演会で開催。	市民福祉団体		イベントの開催を市民の方に広く知らせる			○
2 ・暮らしの“困りごと”を適切な支援につなぎます	2-1) ニーズの気づき・発見 *生活の“困りごと”に早めに気づき、自分で対処したり、必要な支援を求める意識を高めます。 <キーワード> ・自らの気づきを支援する ・まわりの人が気づき、伝える ・さりげなく見守る、声をかける ・ひきこもりやセルフネグレクトの人に関わる ・隠れたニーズを探す <重点的に進める取組> ・“たすけ上手”や“たすけられ上手”な人を増やします	ボランティア連絡会としては、具体的に実施していない。	左に同じ	市福祉関係部 社会福祉協議会					
	2-2) 相談支援の充実 *身近なところで気軽に相談でき、アドバイスや支援をしたり、専門的な機関につなぐ取組を広げます。 <キーワード> ・身近に、いつでも相談できる ・いろいろな相談を受けて、つなぐ ・どこに、何を相談すれば良いかを知る ・「支えてもらってよい」ことを伝える ・当事者同士で相談する ・地域に出向いて相談する（アウトリーチ） <重点的に進める取組> ・総合相談の仕組みとネットワークを充実します	特になし	特になし	特になし					

第2次芦屋市地域福祉計画の実施プラン票

〔 団体名 芦屋ボランティア
連絡会 〕

◎=よくできている
○=できている
△=もう少し

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること (27年度)	今後取り組みたいこと (28年度)	連携・協働したら できること (28年度)	取組 状況	今取り組んでいること (28年度)	今後取り組みたいこと (29年度)	連携・協働したら できること (29年 度)	取組 状況
3 ・地域生活を支えるサービスや活動を充実します	<p>3-1) 福祉サービスの充実 *地域で自立して生活できるよう、多様なニーズに応える質の高い福祉サービスを提供します。 <キーワード> ・分野別計画に基づいて推進する ・エンパワメント(その人の力を引き出す)を支援する ・自己評価・第三者評価を推進する <重点的に進める取組> ・各分野別の地域福祉の視点で推進します</p>	手話、手引き等お役に立つことを積極的にサポートする。	左に同じ	市民福祉団体	◎	手話、手引き等お役に立つことを積極的にサポートする			
	<p>3-2) 地域福祉活動の推進 *さまざまなニーズにきめ細かく応える多様な地域福祉活動をすすめるよう、一人ひとりが「できること」で参加し、多彩な人々に呼びかけて広げます。 <キーワード> ・分野別計画に基づいて推進する ・地域での”ちょっとした支えあい”を広げる ・さまざまな”困りごと”に解決策を考える ・先駆的な活動の事業化を進める ・福祉の仕事への関心を高める、就業環境を改善する <重点的に進める取組> ・担い手の意識やスキルを高める取組を充実する</p>	夏祭りに参加し、みんなで楽しむ福祉をめざしている。	左に同じ	市民福祉団体	◎	夏祭り、秋祭り、運動会、もちつき大会など参加、協力し、皆で楽しむ福祉を目指している			
	<p>3-3) 多様な連携による支援 *新たなニーズや困難な課題が起きたときはみんなで集まって話しあい、力をあわせて取り組みます。 <キーワード> ・コミュニティソーシャルワーク(地域を基盤とした社会福祉の援助)の機能を充実する ・他職種が連携する ・「Joint-Sheet」等を活用した連携を充実する ・共生型のサービスを増やす ・「社会福祉複合施設」を活用する ・新たな”困りごと”に対応する <重点的に進める取組> ・“複雑な困りごと”の解決に向けた取組を充実します</p>	二ヶ月に一回の連絡会でそれぞれの活動状況を把握。	横のつながりをつなげていける連絡会にしたい。	社会福祉協議会 市民福祉団体	○	2か月に1回の会議で各会の活動状況を把握し、協力を高める			
4 ・権利をまもる取組を充実します	<p>4-1) 権利擁護の意識づくり *お互いのニーズを理解し、権利を尊重して生活する意識を高めます。 <キーワード> ・「権利」を自分のこと(してほしいこと、してほしくないこと)こととして考える ・一人ひとりの多様性を大切にする ・身近な地域での権利擁護支援を推進する</p>	特になし	特になし	特になし					
	<p>4-2) 権利侵害・虐待対応の充実 *権利侵害や虐待を予防するための支援と迅速・的確な対応を、地域の力をあわせてすすめます。 <キーワード> ・弱い立場になりがちな人の暮らし”困りごと”を支える ・障がいのある人などへの「合理的配慮」(場面に応じた調整など)を理解し、進める ・専門職団体等と連携する</p>	特になし	特になし	特になし					
	<p>4-3) 後見的支援の充実 *判断能力が不十分な人が自立した生活ができるよう、支援します。 <キーワード> ・市民後見人、法定後見機関等を増やす ・可能な限り本人が意思決定できるように支援する</p>	特になし	特になし	特になし					

第2次芦屋市地域福祉計画の実施プラン票

〔 団体名 芦屋ボランティア
連絡会 〕

◎=よくできている
○=できている
△=もう少し

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること (27年度)	今後取り組みたいこと (28年度)	連携・協働したら できること (28年度)	取組 状況	今取り組んでいること (28年度)	今後取り組みたいこと (29年度)	連携・協働したら できること (29年 度)	取組 状況
5 ・人 と 人 の つ な が り を 広 げ ま す	5-1) 地域でのつながりづくり *あいさつや交流を積極的に行い、困ったときにはたすけあえるつながりと“絆”を広げます。 *地域で支えあうために必要な個人情報の共有について、話し合いをすすめます。 <キーワード> ・自治会、町内会の活動を支援する、参加を呼びかける ・マンション等でも取り組む ・多様な世代や属性の人が交流する、ゆるやかにつながる ・ひとりぼっちをつくらない ・”誰かとどこかで”つながる ・つなぎ役やファシリテーター（おせっかい）を増やす ・地域の課題を地域で解決する ・福祉への関心と活動を活かした「福祉でまちづくり」をすすめる	特になし	特になし	特になし					
6 ・安 心 ・安 全 で バ リ ア の な い 生 活 環 境 を つ く り ま す	6-1) 災害時の支援 *災害時にだれもが安全に避難できるよう、日頃から準備をすすめます。 <キーワード> ・いざというときのためのつながりをつくる ・情報の伝達、安否確認の仕組みをつくる 多様なニーズに対応できる避難所（地域の避難所、福祉避難所）を確保する ・平常時からの取組を進める	継続	左に同じ	地域福祉団体		継続			
	6-2) バリアフリーのまちづくり *だれもが安心して快適に外出し、社会参加ができる環境をつくれます。 <キーワード> ・公共交通や移送サービスを充実する ・バリアフリーの情報を発信する ・出前型のサービスなどの推進	継続	左に同じ	社会福祉協議会 市民福祉団体		継続			
	6-3) 防犯・交通安全の推進 *犯罪や事故のない安全なまちを、地域の力をあわせてつくりまします。 <キーワード> ・気づいた人が声をかける	特になし	特になし	特になし					
	6-4) 住環境の充実 *犯罪や事故のない安全なまちを、地域の力をあわせてつくりまします。 <キーワード> ・ニーズに応じて計画的に整備する	特になし	特になし	特になし					

第2次芦屋市地域福祉計画の実施プラン票

〔 団体名 芦屋ボランティア
連絡会 〕

◎=よくできている
○=できている
△=もう少し

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること (27年度)	今後取り組みたいこと (28年度)	連携・協働したら できること (28年度)	取組 状況	今取り組んでいること (28年度)	今後取り組みたいこと (29年度)	連携・協働したら できること (29年 度)	取組 状況
7. 地域福祉の活動を支えるしくみを充実します	<p>7-1) 活動拠点の充実 *地域の多様な資源を活かして、利用しやすい活動拠点を増やします。 <キーワード> ・地域内外の資源を有効に活用する ・社会貢献を進める <重点的に進める取組> 身近な「つながりの拠点」づくりを進めます</p>	福祉センター、木口記念館を拠点に活用。	継続	特になし		保健福祉センター、木口記念館を拠点に活用			
	<p>7-2) 活動財源の確保 *地域福祉活動への参加としての“寄附文化”を広げながら、多様な方法で活動の財源を生み出します。 <キーワード> ・寄附文化を広げる ・目的に応じた寄附の呼びかけや仕組みづくりを進める</p>	継続	左に同じ	特になし		継続			
	<p>7-3) 活動への支援 *“楽しく”, “しっかり”活動できるよう支援するしくみと取組を充実します。 <キーワード> ・楽しく気軽にできる活動を増やす ・有償の活動やコミュニティビジネスを進める ・仕事などの経験、能力を活かした活動を進める ・新たな活動やグループづくりを支援する ・コミュニティワーク(地域福祉活動支援)を充実する <重点的に進める取組> ・「ひとり一役運動」を推進し、気軽に参加できる機会を増やします ・健康づくりや生きがいづくりの活動を進めます</p>	継続	左に同じ	社会福祉協議会、 県民ボランティア		継続			
	<p>7-4) 協働活動・事業の推進 *“公と民”, “民と民”の多様な協働で、具体的な活動や事業をすすめます。 <キーワード> ・地域間で連携する ・NPOや事業者等との連携を推進する ・公民協働、市民と専門職等の協働による活動、事業を推進する ・行政内の協働、連携を推進する ・地域福祉推進計画との連動する</p>	継続	左に同じ	特になし		継続			
	<p>7-5) ネットワークの充実 *地域のさまざまな人々が出会い、協議し協働するしくみを充実します。 <キーワード> ・地域福祉計画を周知する ・各々の「実施プラン」を持ち寄り、共有する <重点的に進める取組> 「地域発信型ネットワーク」を充実します</p>	継続	左に同じ	地域福祉課		継続			

第2次芦屋市地域福祉計画の実施プラン票

〔 団体名 社会福祉協議会 〕

◎=よくできている
○=できている
△=もう少し

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること (27年度)	今後取り組みたいこと (28年度)	連携・協働したらできること (28年度)	取組状況	今取り組んでいること (28年度)	今後取り組みたいこと (29年度)	連携・協働したらできること (29年度)	取組状況
1. 地域福祉への関心と理解を広げます	1-1) 地域福祉の呼びかけ *地域福祉は、一人ひとりの暮らしに関わるものだとすることを伝えあいます。 <キーワード> ・問題への気づきをうながす	・地域課題解決への取組みとして小地域福祉ブロック会議では具体的な手段について実行委員会等で取組を進めている。(啓発) ・中学校区ネットワーク会議や全市域会議では専門職と住民が話し合う場を設けている。	住民からの自発的な取組みとして、小地域福祉ブロック会議を活用して福祉課題の解決策を検討する。 中学校区会議で取り扱う課題の共有と会議体の活性化。	地域で開催されているイベントと専門職が協働することで、相談窓口の周知啓発に取り組む。 小地域福祉ブロック会議を発信として認知症サポーター養成講座などを開催し、認知症の正しい理解の機会の確保。	○	・地域課題解決への取組として小地域福祉ブロック会議において、解決策を検討し、実施している。(啓発) (例)認知症サポーター養成講座の開催。 ・中学校区ネットワーク会議や全市域会議では専門職と住民が話し合う場を設けている。	・地域の状況を、住民が確認できる取組を進める。 ・住民からの自発的な取組みとして、小地域福祉ブロック会議を活用して福祉課題の解決策を検討する。 ・中学校区会議で取り扱う課題の共有と会議体の活性化。	地域で開催されているイベントと専門職が協働することで、相談窓口の周知啓発に取り組む。	○
	1-2) 学習と話しあいの推進 *学校、公民館、地域、職場等のさまざまなところで地域福祉について学び、考えます。 <キーワード> ・自分のライフデザインを考える ・実践につながる学習を進める ・参加型、体験型の学習を進める ・地域の課題を知る、考える、話しあう <重点的に進める取組> ・地域福祉について学んだり、考えたりする機会を増やします	市内小学校・中学校・高校、警察学校などへ福祉学習の機会とそのメニューの提案、講師のコーディネート。	年齢相応のプログラムの作成と提案。	・自治会等の地域団体、学校、事業所と連携し、学習の機会の確保。 ・関係機関と協働した、学習メニューの充実。	◎	・市内小学校・中学校・高校、警察学校などへ福祉学習の機会とそのメニューの提案、講師のコーディネートを行う。 ・一部の学校では、自主的なプログラムの企画につながる。 ・自治会や、事業所等への認知症サポーター養成講座の呼びかけを開催。	・幅広い世代の市民に合わせた学習プログラムを用意し、啓発活動に取り組む。 ・学習を活動につなげる支援を行う。	・自治会等の地域団体、学校、事業所と連携し、学習の機会の確保。 ・関係機関と協働した、学習メニューの充実。	◎
	1-3) 情報の発信・伝達 *地域福祉のさまざまな情報を発信します。 *必要な人に必要な情報が届くよう、きめ細かく伝えます。 *必要な情報を自分で得るように努力します。 <キーワード> ・いろいろな公民の情報を集める ・まとめて発信する ・双方向で発信する ・多様なメディアを活用する ・ICTの利用を促進する、使い方を広める、ルールをつくる ・身近な人が直接つなげる <重点的に進める取組> ・ICTも活用し、情報を細やかに伝える取組を進めます	・社協だより編集検討委員会で内容の充実に取り組んでいる。 ・ホームページリニューアル。 ・地区福祉委員会が見まもり活動の一環として自治会等地域の協力を得て、社協だよりを各戸配布を行っている。 ・ホームページからの相談の受け付け。 各機関、団体との双方向の情報収集に努める。	・引き続き編集検討委員会で内容の充実に取り組む。 ・さまざまなメディアを活用して、より多くの方への情報発信を行なう。 継続して取り組む。	特になし。	○	・社協だより編集検討委員会で内容の充実に取り組んでいる。 ・地区福祉委員会が見守り活動の一環として自治会等地域の協力を得て、社協だよりを各戸配布している。 ・地区福祉委員会が、地区内の住民向けに「地区福祉だより」を発行している。 ・ホームページにより情報を発信し、相談の受付を行っている。	・引き続き編集検討委員会で内容の充実に取り組む。 ・さまざまなメディアを活用して、より多くの方への情報発信を行なう。	各機関、団体との双方向の情報収集に努める。	○
2. 暮らしの“困りごと”を適切な支援につなぎます	2-1) ニーズの気づき・発見 *生活の“困りごと”に早めに気づき、自分で対処したり、必要な支援を求め意識を高めます。 <キーワード> ・自らの気づきを支援する ・まわりの人が気づき、伝える ・さりげなく見守る、声をかける ・ひきこもりやセルフネグレクトの人に関わる ・隠れたニーズを探す <重点的に進める取組> ・“たすけ上手”や“たすけられ上手”な人を増やします	・地区福祉委員会活動での各町委員による訪問やつどいででのニーズ発見。 ・協力事業者による高齢者見まもり事業（地域見まもりネットワーク）実施において、ニーズの気づき・発見の意識を高めている。 ・職員の専門性の強化。	・地区福祉委員会活動の研修を充実し、生活上の困りごとを抱えた方の早期発見に取り組む。 ・地域見まもりネットワーク登録事業者を訪問し、早期発見に取り組む。 ・職員研修の充実。	民生児童委員、自治会などと協力しニーズ把握に取り組む。	○	・地区福祉委員会活動での各町委員による訪問やつどいででのニーズ発見。 ・協力事業者による高齢者見まもり事業（地域見まもりネットワーク）実施において、ニーズの気づき・発見の意識を高めている。 ・職員の専門性の強化。	・地区福祉委員会活動の研修を充実し、生活上の困りごとを抱えた方の早期発見に取り組む。 ・地域見まもりネットワーク登録事業者の、登録数の増加に努める。 ・職員研修の充実。	民生委員・児童委員、自治会などと協力しニーズ把握に取り組む。	○
	2-2) 相談支援の充実 *身近なところで気軽に相談でき、アドバイスや支援をしたり、専門的な機関につなぐ取組を広げます。 <キーワード> ・身近に、いつでも相談できる ・いろいろな相談を受けて、つなぐ ・どこに、何を相談すれば良いかを知る ・「支えてもらってよい」ことを伝える ・当事者同士で相談する ・地域に向いて相談する（アウトリーチ） <重点的に進める取組> ・総合相談の仕組みとネットワークを充実します	・総合相談窓口においてあらゆる相談に対応している。 ・地域交流拠点「まごのて」で福祉なんでも相談を月2回実施。 ・セブンイレブン潮芦屋店で福祉何でも相談を月1回実施。 ・地域のイベントにおいて相談窓口を開設。 ・心配ごと相談などから早期発見し、適切な支援へつなぐ。	・福祉なんでも相談場所を増やす。 ・相談者を適切な相談窓口へつなぐ。 ・支援方針などを関係機関と連携して計画し、より本人の意思に沿った支援をできるように相談員の資質向上に努める。	自治会や地域住民との連携のもと、出張相談場所の確保に努める。	◎	・総合相談窓口においてあらゆる相談に対応している。 ・医師会の協力で総合相談窓口を市内の医療機関へ設置した。 ・地域交流拠点「打出いこいの場 まごのて」で福祉なんでも相談を月2回実施。 ・セブンイレブン潮芦屋店で福祉なんでも相談を月1回実施。 ・地域のイベントにおいて相談窓口を開設。 ・心配ごと相談などから早期発見し、適切な支援へつなぐ。	・福祉なんでも相談場所を増やす。 ・相談者を適切な相談窓口へつなぐ。 ・支援方針などを関係機関と連携して計画し、より本人の意思に沿った支援をできるように相談員の資質向上に努める。	自治会や地域住民との連携のもと、出張相談場所の確保に努める。	◎

第2次芦屋市地域福祉計画の実施プラン票

〔 団体名 社会福祉協議会 〕

◎=よくできている
○=できている
△=もう少し

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること (27年度)	今後取り組みたいこと (28年度)	連携・協働したらできること (28年度)	取組状況	今取り組んでいること (28年度)	今後取り組みたいこと (29年度)	連携・協働したらできること (29年度)	取組状況
3 ・地域生活を支えるサービスや活動を充実します	<p>3-1) 福祉サービスの充実 *地域で自立して生活できるよう、多様なニーズに応える質の高い福祉サービスを提供します。 ＜キーワード＞ ・分野別計画に基づいて推進する ・エンパワメント（その人の力を引き出す）を支援する ・自己評価・第三者評価を推進する ＜重点的に進める取組＞ ・各分野別の地域福祉の視点で推進します</p>	<ul style="list-style-type: none"> 障がい児日中一時支援事業。 ファミリーサポートセンター。 生活福祉資金の貸付。 生活困窮者自立支援事業。 福祉サービス利用援助事業。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動や地域活動の連携。 各種事業を利用している方への自立支援。 	関係機関、地域住民との連携による困りごとを抱えている方への自立支援。	○	<ul style="list-style-type: none"> 障がい児日中一時支援事業。 ファミリーサポートセンター。 生活福祉資金の貸付。 生活困窮者自立支援事業。 福祉サービス利用援助事業。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動や地域活動の連携。 生活困窮者支援を地域住民が担う仕組み作り。 各種事業を利用している方への自立支援。 	関係機関、地域住民との連携による困りごとを抱えている方への自立支援。	◎
	<p>3-2) 地域福祉活動の推進 *さまざまなニーズにきめ細かく応える多様な地域福祉活動をすすめるよう、一人ひとりが「できること」で参加し、多彩な人々に呼びかけて広げます。 ＜キーワード＞ ・分野別計画に基づいて推進する ・地域での“ちょっとした支えあい”を広げる ・さまざまな“困りごと”に解決策を考える ・先駆的な活動の事業化を進める ・福祉の仕事への関心を高める、就業環境を改善する ＜重点的に進める取組＞ ・担い手の意識やスキルを高める取組を充実する</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「小地域福祉活動の手引き」による、地区福祉委員会活動（民生委員、福祉推進委員）の活動の推進。 小地域ブロック会議に参画するなどして、自治会、老人会、コミスク等との連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 福祉推進委員資質向上のための研修の充実。 小地域ブロック会議への多様な団体の参加呼びかけ。 	自治会、民生児童委員との連携により地域づくりを進め、早期発見と早期支援できる地域を目指す。	○	<ul style="list-style-type: none"> 「小地域福祉活動の手引き」による、地区福祉委員会活動（民生委員・児童委員、福祉推進委員）の活動の推進。 小地域福祉ブロック会議に参画するなどして、自治会、老人会、コミスク等との連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 福祉推進委員資質向上のための研修の充実。 小地域福祉ブロック会議への多様な団体の参加呼びかけ。 	自治会、民生委員・児童委員との連携により地域づくりを進め、早期発見と早期支援できる地域を目指す。	○
	<p>3-3) 多様な連携による支援 *新たなニーズや困難な課題が起きたときはみんなで集まって話しあい、力をあわせて取り組みます。 ＜キーワード＞ ・コミュニティソーシャルワーク（地域を基盤とした社会福祉の援助）の機能を充実する ・他職種が連携する ・「Joint-Sheet」等を活用した連携を充実する ・共生型のサービスを増やす ・「社会福祉複合施設」を活用する ・新たな“困りごと”に対応する ＜重点的に進める取組＞ ・“複雑な困りごと”の解決に向けた取組を充実します</p>	<ul style="list-style-type: none"> 小地域ブロック連絡会や、ミニ地域ケア会議の場で住民同士、関係機関との話し合い。 協力事業者による高齢者見まもり事業（地域見まもりネットワーク）により協力者の拡充を図り、早期支援につなぐ。 総合相談連絡会等の専門職機関の連携による適切な支援。 フードバンク関西との連携で、食のセーフティネットワークづくり。 芦屋市と協定を締結し、消費期限内の余剰防災備蓄食料の提供を受け、食糧支援に活用。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合相談窓口からの発信だけでなく、相談機関が受ける相談内容についても連携し支援に努める。 協力事業者間の情報交換や連携の場面を作る。 	特になし。	○	<ul style="list-style-type: none"> 小地域福祉ブロック会議や、中学校区福祉ネットワーク会議で、住民同士、関係機関との話し合い。 協力事業者による高齢者見まもり事業（地域見まもりネットワーク）により協力者の拡充を図り、早期支援につなぐ。 総合相談窓口における専門職機関の連携による適切な支援。 総合相談連絡会において、相談機関の抱えるケースについての事例検討を行っている。 フードバンク関西との連携で、食のセーフティネットワークづくり。 芦屋市と協定を締結し、消費期限内の余剰防災備蓄食料の提供を受け、食糧支援に活用。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の課題解決に向けて、専門職だけでなく、住民を交えて解決する支援を推進する。 小地域福祉ブロック会議や、中学校区福祉ネットワーク会議へ多様な参加者の呼びかけ。 協力事業者間の情報交換や連携の場面を作る。 	協力事業者や、活動に協力する団体と連携する。	○
4 ・権利をまもる取組を充実します	<p>4-1) 権利擁護の意識づくり *お互いのニーズを理解し、権利を尊重して生活する意識を高めます。 ＜キーワード＞ ・「権利」を自分のこと（してほしいこと、してほしくないこと）こととして考える ・一人ひとりの多様性を大切にする ・身近な地域での権利擁護支援を推進する</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地区福祉委員会でのワークショップ実施地区の拡大。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域発信型ネットワークでの勉強会の実施。 	特になし。	◎	<ul style="list-style-type: none"> 地区福祉委員会でのワークショップ実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しいワークショップの内容の検討。 	特になし。	○
	<p>4-2) 権利侵害・虐待対応の充実 *権利侵害や虐待を予防するための支援と迅速・的確な対応を、地域の力をあわせてすすめます。 ＜キーワード＞ ・弱い立場になりがちな人の暮らし”困りごと”を支える ・障がいのある人などへの「合理的配慮」（場面に応じた調整など）を理解し、進める ・専門職団体等と連携する</p>	<ul style="list-style-type: none"> NPOと共同で権利擁護支援センターを受託し、権利擁護に関する専門相談や専門的支援、人材育成等の事業を関係機関と連携して行っている。 法人後見準備検討会を設置。 法人後見実施要綱等整備。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉協議会としての、権利擁護支援センターの体制の充実を図る。 法人後見受任とその体制充実。 	権利擁護支援センター共同受託法人との連携による法人後見受任。	◎	<ul style="list-style-type: none"> NPOと共同で権利擁護支援センターを受託し、権利擁護に関する専門相談や専門的支援、人材育成等の事業を関係機関と連携して行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉協議会としての、権利擁護支援センターの体制の充実を図る。 虐待対応マニュアルに基づき、スキルアップのための研修の実施。 	特になし。	◎
	<p>4-3) 後見的支援の充実 *判断能力が不十分な人が自立した生活ができるよう、支援します。 ＜キーワード＞ ・市民後見人、法定後見機関等を増やす ・可能な限り本人が意思決定できるように支援する</p>	<ul style="list-style-type: none"> 福祉サービス利用援助事業を実施。 財産保全サービス事業の実施。 	福祉サービス利用援助事業継続実施。	特になし。	◎	<ul style="list-style-type: none"> 福祉サービス利用援助事業を実施。 財産保全サービス事業の実施。 法人後見受任に向けて申立て中。 	継続実施。	特になし。	◎

第2次芦屋市地域福祉計画の実施プラン票

〔 団体名 社会福祉協議会 〕

◎=よくできている
○=できている
△=もう少し

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること (27年度)	今後取り組みたいこと (28年度)	連携・協働したらできること (28年度)	取組状況	今取り組んでいること (28年度)	今後取り組みたいこと (29年度)	連携・協働したらできること (29年度)	取組状況
5 人 と 人 の つ な が り を 広 げ ま す	5-1) 地域でのつながりづくり *あいさつや交流を積極的に行い、困ったときにはたすけあえるつながりと“絆”を広げます。 *地域で支えあうために必要な個人情報の共有について、話し合いをすすめます。 <キーワード> ・自治会、町内会の活動を支援する、参加を呼びかける ・マンション等でも取り組む ・多様な世代や属性の人が交流する、ゆるやかにつながる ・ひとりぼっちをつくらない ・”誰かとどこかで”つながる ・つなぎ役やファシリテーター（おせっかい）を増やす ・地域の課題を地域で解決する ・福祉への関心と活動を活かした「福祉でまちづくり」をすすめる	・小地域福祉ブロック会議等地域発信型ネットワークの充実。 ・地域福祉活動に取り組む方への支援。 ・緊急災害時要配慮者情報の日頃からの見守り希望者への見守り体制の推進。 ・福祉マップを活用しての見守り対象者の情報把握。	地域福祉活動ネットワークの充実。 ・緊急災害時要配慮者情報見守り希望者の情報共有と見守り活動の充実。 ・福祉マップ情報更新と情報共有。 ・救急医療情報キット未配布のところへの呼びかけ。	・自治会、自主防災会と地区福祉委員会の連携により、緊急災害時要配慮者の見守りの充実。 ・自治会、管理組合との連携により救急医療情報キットの配布と利用促進の呼びかけ。	○	・小地域福祉ブロック会議等地域発信型ネットワークの充実。 ・地域福祉活動に取り組む方への支援。 ・緊急災害時要配慮者情報の日頃からの見守り希望者への見守り体制の推進。 ・福祉マップを活用しての見守り対象者の情報把握。	・地域福祉活動ネットワークの充実。 ・緊急災害時要配慮者情報見守り希望者の情報共有と見守り活動の充実。 ・福祉マップ情報更新と情報共有。 ・救急医療情報キット未配布のところへの呼びかけ。	・自治会、自主防災会と地区福祉委員会の連携により、緊急災害時要配慮者の見守りの充実。 ・自治会、管理組合との連携により救急医療情報キットの配布と利用促進の呼びかけ。	○
6 安 心 ・ 安 全 で バ リ ア の な い 生 活 環 境 を つ く り ま す	6-1) 災害時の支援 *災害時にだれもが安全に避難できるよう、日頃から準備をすすめます。 <キーワード> ・いざというときのためのつながりをつくる ・情報の伝達、安否確認の仕組みをつくる 多様なニーズに対応できる避難所（地域の避難所、福祉避難所）を確保する ・平常時からの取組を進める	・緊急災害時要配慮者避難支援計画の地域での取組を支援。 ・地域での防災・避難訓練等への協力。 ・災害ボランティアセンター機材整備。 ・芦屋市と協定を締結し、災害時にすみやかに災害ボランティアセンターを設置する体制を整える。	・緊急災害時要配慮者避難支援計画の地域支援者を増やす取組を支援。 ・地域での防災・避難訓練等への協力と積極的な参加。 ・災害時要配慮者避難訓練と災害ボランティアセンター設置訓練。	・緊急災害時要配慮者避難支援計画の地域支援者を増やす取組み。 ・福祉マップを災害マップとして活用できるように自治会等と協力。 ・災害ボランティアセンター設置等に関する協定書。 ・防災倉庫食料の提供について（確認書）。	○	・緊急災害時要配慮者避難支援計画の地域での取組を支援。 ・地域での防災・避難訓練等への協力。 ・災害ボランティアセンター機材整備。 ・地域での防災・避難訓練等への協力と参加。	・緊急災害時要配慮者避難支援計画の地域支援者を増やす取組を支援。 ・地域での防災・避難訓練等への協力と積極的な参加。 ・災害時要配慮者避難訓練と災害ボランティアセンター設置訓練。	・緊急災害時要配慮者避難支援計画の地域支援者を増やす取組み。 ・福祉マップを災害マップとして活用できるように自治会等と協力。	○
	6-2) バリアフリーのまちづくり *だれもが安心して快適に外出し、社会参加ができる環境をつくれます。 <キーワード> ・公共交通や移送サービスを充実する ・バリアフリーの情報を発信する ・出前型のサービスなどの推進	・民生委員宅に車いすを配置し、近隣で利用しやすい体制を作る。 ・故障している車いすの修理と入れ替え。	車いす利用促進。	特になし。	○	・民生委員・児童委員宅に車いすを配置し、近隣で利用しやすい体制を作る。 ・故障している車いすの修理と入れ替え。	車いす利用促進。	特になし。	○
	6-3) 防犯・交通安全の推進 *犯罪や事故のない安全なまちを、地域の力をあわせてつくりまします。 <キーワード> ・気づいた人が声をかける	・地域での児童の登下校の見守りなどの防犯活動について、小地域福祉ブロック会議で共有。 ・子育て応援団活動への協力。	活動の充実。	小地域ブロック会議等で住民間の情報の共有。	○	・芦屋市子育て応援団活動への協力。	活動の充実。	小地域福祉ブロック会議等で住民間の情報の共有。	○
	6-4) 住環境の充実 *犯罪や事故のない安全なまちを、地域の力をあわせてつくりまします。 <キーワード> ・ニーズに応じて計画的に整備する	生活福祉資金で、転宅費と、住宅改修費の貸付。	・生活福祉資金で、転宅費と、住宅改修費の貸付。 ・貸付時の相談支援の充実 ・償還支援。	民生委員・関係機関相談員との連携による借入者の自立支援。	◎	生活福祉資金で、転宅費と、住宅改修費の貸付	・生活福祉資金で、転宅費と、住宅改修費の貸付。 ・貸付時の相談支援の充実。 ・償還支援。	民生委員・児童委員、関係機関相談員との連携による借入者の自立支援。	◎

第2次芦屋市地域福祉計画の実施プラン票

〔 団体名 社会福祉協議会 〕

◎=よくできている
○=できている
△=もう少し

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること (27年度)	今後取り組みたいこと (28年度)	連携・協働したらできること (28年度)	取組状況	今取り組んでいること (28年度)	今後取り組みたいこと (29年度)	連携・協働したらできること (29年度)	取組状況
7. 地域福祉の活動を支えるしくみを充実します	7-1) 活動拠点の充実 *地域の多様な資源を活かして、利用しやすい活動拠点を増やします。 <キーワード> ・地域内外の資源を有効に活用する ・社会貢献を進める <重点的に進める取組> 身近な「つながりの拠点」づくりを進めます	・地域交流拠点「まごのて」を設置し、運営。 ・まごのてで出張相談を実施。 ・山手サンモール内に、地域防災拠点「スマイルサンモールひろば」を設置、防災訓練時に防災倉庫機材を活用。 ・集会所を利用して地区生きがいデイサービスの実施。	・まごのての効果的な活用方法の検討。 ・地区生きがいデイサービスの充実。	特になし。	○	・地域交流拠点「打出いこいの場 まごのて」を設置し、運営。 ・まごのて協力員養成講座の実施や新たなイベントの開催。 ・「まごのて」で出張相談を実施。 ・山手サンモール内に、地域防災拠点「スマイルサンモールひろば」を設置、防災訓練時に防災倉庫機材を活用。 ・集会所を利用した地区生きがいデイサービスの増加。	・「まごのて」の効果的な活用方法の検討。 ・地区生きがいデイサービスの充実。	特になし。	◎
	7-2) 活動財源の確保 *地域福祉活動への参加としての“寄附文化”を広げながら、多様な方法で活動の財源を生み出します。 <キーワード> ・寄附文化を広げる ・目的に応じた寄附の呼びかけや仕組みづくりを進める	・会員会費制度の実施。 ・共同募金運動の実施。	・社協活動の理解を求め、「社協活動の応援団」としての会員の増加に努める。 ・共同募金の目的、配分金の用途を明確にした運動を行ない、地域福祉への参加意識を高める。 ・共同募金配分金事業実施時にPRフラッグなども活用する。	共同募金委員会との更なる連携。	○	・会員会費制度の実施。 ・共同募金運動の実施。 ・中学校、高等学校生とへの共同募金運動のPR ・共同募金運動の活動期間を延長し(1~3月)、広報に努める。	・社協活動の理解を求め、「社協活動の応援団」としての会員の増加に努める。 ・共同募金の目的、配分金の用途を明確にした運動を行い、地域福祉への参加意識を高める。 ・共同募金配分金事業実施時にPRフラッグなども活用する。	・共同募金委員会との更なる連携。 ・募金運動の担い手である、自治会、民生委員・児童委員等との連携。	○
	7-3) 活動への支援 *“楽しく”、“しっかり”活動できるよう支援するしくみと取組を充実します。 <キーワード> ・楽しく気軽にできる活動を増やす ・有償の活動やコミュニティビジネスも進める ・仕事などの経験、能力を活かした活動を進める ・新たな活動やグループづくりを支援する ・コミュニティワーク(地域福祉活動支援)を充実する <重点的に進める取組> ・「ひとり一役運動」を推進し、気軽に参加できる機会を増やします ・健康づくりや生きがいづくりの活動を進めます	・地域住民が取り組む地域福祉活動の活性化のための協力。	課題解決を通して、各町内会域での見まもり活動等の住民活動の支援を行う。	特になし。	○	・ボランティア活動センターでのボランティアグループ支援。 ・地域住民が取り組む地域福祉活動の活性化のための協力。	・ボランティア活動センターでのボランティアプログラムの検討。 ・課題解決を通して、各町内会域での見まもり活動等の住民活動の支援を行う。 ・活動者へのフォローアップの実施。	・新たな地域活動団体との連携。	○
	7-4) 協働活動・事業の推進 *“公と民”、“民と民”の多様な協働で、具体的な活動や事業をすすめます。 <キーワード> ・地域間で連携する ・NPOや事業者等との連携を推進する ・公民協働、市民と専門職等の協働による活動、事業を推進する ・行政内の協働、連携を推進する ・地域福祉推進計画との連動する	・見守り協定を締結している事業所と早期発見機能の充実に取り組む。 ・フードバンク活動支援としてフードドライブに取り組む。 ・芦屋市と協定を締結し消費期限内の余剰防災備蓄食糧の提供を受け、食糧支援に活用。	継続して取り組む。	福祉フェアでのフードドライブ。 備蓄食糧の活用。	○	・見守り協定を締結している事業所と早期発見機能の充実に取り組む。 ・フードバンク活動支援としてフードドライブに取り組む。 ・芦屋市と協定を締結し消費期限内の余剰防災備蓄食糧の提供を受け、食糧支援に活用。	・継続して取り組む。 ・福祉フェアでのフードドライブ。	新たな地域活動団体との連携。	○
	7-5) ネットワークの充実 *地域のさまざまな人々が出会い、協議し協働するしくみを充実します。 <キーワード> ・地域福祉計画を周知する ・各々の「実施プラン」を持ち寄り、共有する <重点的に進める取組> 「地域発信型ネットワーク」を充実します	・地域発信型ネットワークの充実。 ・生活困窮者支援を通じての地域づくりの仕組みを検討。	継続して取り組む。	様々な団体や関係機関との連携により、住民ネットワークの充実に取り組む。	○	・地域発信型ネットワークの充実。 ・生活困窮者支援を通じての地域づくりの仕組みを検討。	継続して取り組む。	様々な団体や関係機関との連携により、住民ネットワークの充実に取り組む。	○

第2次芦屋市地域福祉計画の実施プラン票

〔団体名 西山手高齢者生活支援センター〕

◎=よくできている
○=できている
△=もう少し

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること (27年度)	今後取り組みたいこと (28年度)	連携・協働したらできること (28年度)	取組状況	今取り組んでいること (28年度)	今後取り組みたいこと (29年度)	連携・協働したらできること (29年度)	取組状況
1. 地域福祉への関心と理解を広げます	1-1) 地域福祉の呼びかけ *地域福祉は、一人ひとりの暮らしに関わるものだという事を伝えあいます。 <キーワード> ・問題への気づきをうながす	特になし	特になし	特になし		お出かけトーク(出前講座)時に、地域の支えあいの必要性を伝える。	お出かけトークでの普及啓発	社会福祉協議会市の関係機関	○
	1-2) 学習と話しあいの推進 *学校、公民館、地域、職場等のさまざまなところで地域福祉について学び、考えます。 <キーワード> ・自分のライフデザインを考える ・実践につながる学習を進める ・参加型、体験型の学習を進める ・地域の課題を知る、考える、話しあう <重点的に進める取組> ・地域福祉について学んだり、考えたりする機会を増やします	母体施設の他サービス事業者 に地域包括ケアの周知啓発研修。	生活支援体制整備事業の広報周知。	地域に開かれた施設に向けて、啓発を行っていく。	○	生活支援体制整備事業の広報周知。	生活支援体制整備事業の広報周知	社会福祉協議会市の関係機関	△
	1-3) 情報の発信・伝達 *地域福祉のさまざまな情報を発信します。 *必要な人に必要な情報が届くよう、きめ細かく伝えます。 *必要な情報を自分で得るように努力します。 <キーワード> ・いろいろな公民館の情報を集める ・まとめて発信する ・双方向で発信する ・多様なメディアを活用する ・ICTの利用を促進する、使い方を広める、ルールをつくる ・身近な人が直接つなげる <重点的に進める取組> ・ICTも活用し、情報を細やかに伝える取組を進めます	・研修の講師を継続していく。 ・施設内会議で地域情報を発信し、参加後に報告を行う。	生活支援体制整備事業の広報周知。	地域に開かれた施設に向けて、まず地域で働いている意識を高める啓発を行っていく。	○	社会資源の情報収集	社会資源の可視化	社会福祉協議会市の関係機関	○
2. 暮らしの“困りごと”を適切な支援につなぎます	2-1) ニーズの気づき・発見 *生活の“困りごと”に早めに気づき、自分で対処したり、必要な支援を求める意識を高めます。 <キーワード> ・自らの気づきを支援する ・まわりの人が気づき、伝える ・さりげなく見守る、声をかける ・ひきこもりやセルフネグレクトの人に関わる ・隠れたニーズを探す <重点的に進める取組> ・“たすけ上手”や“たすけられ上手”な人を増やします	特になし	特になし	特になし	○	ケアプランが自立した日常生活の支援につながるよう、利用者と共に考える。	ケアプランが自立した日常生活の支援につながるよう、利用者と共に考える。	介護サービス事業者	○
	2-2) 相談支援の充実 *身近なところで気軽に相談でき、アドバイスや支援をしたり、専門的な機関につなぐ取組を広げます。 <キーワード> ・身近に、いつでも相談できる ・いろいろな相談を受けて、つなぐ ・どこに、何を相談すれば良いかを知る ・「支えてもらってよい」ことを伝える ・当事者同士で相談する ・地域に出向いて相談する(アウトリーチ) <重点的に進める取組> ・総合相談の仕組みとネットワークを充実します	東西山手高齢者生活支援センター通信を発行し、活動を知ってもらう。	金融機関と懇談会等を開き、顔の見える関係になる。	地域の支援者になっていただけるよう、認知症サポーター養成講座等開催する。		郵便局と懇談会等を開催。包括の活動を知ってもらえるよう、定期的な交流会開催予定。行員向けに認知症サポーター養成講座開催。	継続していく	社会福祉協議会市の関係機関	○

第2次芦屋市地域福祉計画の実施プラン票

団体名 西山手高齢者生活
支援センター

◎=よくできている
○=できている
△=もう少し

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること (27年度)	今後取り組みたいこと (28年度)	連携・協働したら できること (28年度)	取組 状況	今取り組んでいること (28年度)	今後取り組みたいこと (29年度)	連携・協働したら できること(29年 度)	取組 状況
3 ・地域生活を支えるサービスや活動を充実します	3-1) 福祉サービスの充実 *地域で自立して生活できるよう、多様なニーズに応える質の高い福祉サービスを提供します。 <キーワード> ・分野別計画に基づいて推進する ・エンパワメント(その人の力を引き出す)を支援する ・自己評価・第三者評価を推進する <重点的に進める取組> ・各分野別の地域福祉の視点で推進します	特になし	特になし	特になし		特になし	特になし	特になし	
	3-2) 地域福祉活動の推進 *さまざまなニーズにきめ細かく応える多様な地域福祉活動をすすめるよう、一人ひとりが「できること」で参加し、多彩な人々に呼びかけて広げます。 <キーワード> ・分野別計画に基づいて推進する ・地域での”ちょっとした支えあい”を広げる ・さまざまな”困りごと”に解決策を考える ・先駆的な活動の事業化を進める ・福祉の仕事への関心を高める、就業環境を改善する <重点的に進める取組> ・担い手の意識やスキルを高める取組を充実する	特になし	特になし	特になし		地区福祉委員会への参加	地区福祉委員会への参加	社会福祉協議会 市の関係機関	○
	3-3) 多様な連携による支援 *新たなニーズや困難な課題が起きたときはみんなで集まって話しあい、力をあわせて取り組みます。 <キーワード> ・コミュニティソーシャルワーク(地域を基盤とした社会福祉の援助)の機能を充実する ・他職種が連携する ・「Joint-Sheet」等を活用した連携を充実する ・共生型のサービスを増やす ・「社会福祉複合施設」を活用する ・新たな”困りごと”に対応する <重点的に進める取組> ・“複雑な困りごと”の解決に向けた取組を充実します	特になし	特になし	特になし		・地域ケア会議の開催 ・市内4包括の定例会	・地域ケア会議の開催 ・市内4包括の定例会	市内包括支援センター	○
4 ・権利をまもる取組を充実します	4-1) 権利擁護の意識づくり *お互いのニーズを理解し、権利を尊重して生活する意識を高めます。 <キーワード> ・「権利」を自分のこと(してほしいこと、してほしくないこと)こととして考える ・一人ひとりの多様性を大切にする ・身近な地域での権利擁護支援を推進する	特になし	特になし	特になし		お出かけトーク(出前講座)時に、普及啓発	お出かけトーク(出前講座)時に、普及啓発	権利擁護センター	○
	4-2) 権利侵害・虐待対応の充実 *権利侵害や虐待を予防するための支援と迅速・的確な対応を、地域の力をあわせてすすめます。 <キーワード> ・弱い立場になりがちな人の暮らし”困りごと”を支える ・障がいのある人などへの「合理的配慮」(場面に応じた調整など)を理解し、進める ・専門職団体等と連携する	お出かけトーク時に、権利擁護についての説明を含める。	認知症の方が在宅で安心して生活できる地域づくり。	認知症サポーター養成講座等を自治会等小さい単位で開催する。	○	認知症サポーター養成講座を講師として行った	認知症サポーター養成講座を講師して行った	社会福祉協議会 市の関係機関	△
	4-3) 後見的支援の充実 *判断能力が不十分な人が自立した生活ができるよう、支援します。 <キーワード> ・市民後見人、法定後見機関等を増やす ・可能な限り本人が意思決定できるように支援する	特になし	特になし	特になし		福祉サービス援助事業や成年後見制度へつなぐ	福祉サービス援助事業や成年後見制度へつなぐ	社会福祉協議会 市の関係機関 権利擁護センター	○

第2次芦屋市地域福祉計画の実施プラン票

〔団体名 西山手高齢者生活支援センター〕

◎=よくできている
○=できている
△=もう少し

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること (27年度)	今後取り組みたいこと (28年度)	連携・協働したら できること (28年度)	取組 状況	今取り組んでいること (28年度)	今後取り組みたいこと (29年度)	連携・協働したら できること(29年 度)	取組 状況
5 ・人 と 人 の つ な が り を 広 げ ま す	5-1) 地域でのつながりづくり *あいさつや交流を積極的に行い、困ったときにはたすけあえるつながりと“絆”を広げます。 *地域で支えあうために必要な個人情報の共有について、話し合いをすすめます。 <キーワード> ・自治会、町内会の活動を支援する、参加を呼びかける ・マンション等でも取り組む ・多様な世代や属性の人が交流する、ゆるやかにつながる ・ひとりぼっちをつくらない ・”誰かとどこかで”つながる ・つなぎ役やファシリテーター(おせっかい)を増やす ・地域の課題を地域で解決する ・福祉への関心と活動を活かした「福祉でまちづくり」をすすめる	特になし	特になし	特になし		特になし	特になし	特になし	
6 ・安 心 ・安 全 で バ リ ア の な い 生 活 環 境 を つ く り ま す	6-1) 災害時の支援 *災害時にだれもが安全に避難できるよう、日頃から準備をすすめます。 <キーワード> ・いざというときのためのつながりをつくる ・情報の伝達、安否確認の仕組みをつくる 多様なニーズに対応できる避難所(地域の避難所、福祉避難所)を確保する ・平常時からの取組を進める	独居や高齢夫婦の相談時に、要援護者台帳の利用を紹介する。	継続実施	民生委員との情報交換。	○	独居や高齢者夫婦の相談時に、緊急災害時要援護者台帳の利用を紹介する。	継続実施	民生委員・児童委員との情報交換。	○
	6-2) バリアフリーのまちづくり *だれもが安心して快適に外出し、社会参加ができる環境をつくりまします。 <キーワード> ・公共交通や移送サービスを充実する ・バリアフリーの情報を発信する ・出前型のサービスなどの推進	特になし	特になし	特になし		特になし	特になし	特になし	
	6-3) 防犯・交通安全の推進 *犯罪や事故のない安全なまちを、地域の力をあわせてつくりまします。 <キーワード> ・気づいた人が声をかける	特になし	特になし	特になし		特になし	特になし	特になし	
	6-4) 住環境の充実 *犯罪や事故のない安全なまちを、地域の力をあわせてつくりまします。 <キーワード> ・ニーズに応じて計画的に整備する	特になし	特になし	特になし		特になし	特になし	特になし	

第2次芦屋市地域福祉計画の実施プラン票

〔団体名 西山手高齢者生活支援センター〕

◎=よくできている
○=できている
△=もう少し

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること (27年度)	今後取り組みたいこと (28年度)	連携・協働したら できること (28年度)	取組 状況	今取り組んでいること (28年度)	今後取り組みたいこと (29年度)	連携・協働したら できること(29年 度)	取組 状況
7. 地域福祉の活動を支えるしくみを充実します	<p>7-1) 活動拠点の充実 *地域の多様な資源を活かして、利用しやすい活動拠点を増やします。 <キーワード> ・地域内外の資源を有効に活用する ・社会貢献を進める <重点的に進める取組> 身近な「つながりの拠点」づくりを進めます</p>	特になし	特になし	特になし		特になし	特になし	特になし	
	<p>7-2) 活動財源の確保 *地域福祉活動への参加としての“寄附文化”を広げながら、多様な方法で活動の財源を生み出します。 <キーワード> ・寄附文化を広げる ・目的に応じた寄附の呼びかけや仕組みづくりを進める</p>	特になし	特になし	特になし		特になし	特になし	特になし	
	<p>7-3) 活動への支援 *“楽しく”, “しっかり”活動できるよう支援するしくみと取組を充実します。 <キーワード> ・楽しく気軽にできる活動を増やす ・有償の活動やコミュニティビジネスも進める ・仕事などの経験、能力を活かした活動を進める ・新たな活動やグループづくりを支援する ・コミュニティワーク(地域福祉活動支援)を充実する <重点的に進める取組> ・「ひとり一役運動」を推進し、気軽に参加できる機会を増やします ・健康づくりや生きがいづくりの活動を進めます</p>	特になし	特になし	特になし		特になし	特になし	特になし	
	<p>7-4) 協働活動・事業の推進 *“公と民”, “民と民”の多様な協働で、具体的な活動や事業をすすめます。 <キーワード> ・地域間で連携する ・NPOや事業者等との連携を推進する ・公民協働、市民と専門職等の協働による活動、事業を推進する ・行政内の協働、連携を推進する ・地域福祉推進計画との連動する</p>	<p>高齢介護課/社会福祉協議会の「協力事業者による高齢者見守り事業」を訪問し協力事業者と顔が見える関係になる。</p>	<p>包括機能の周知広報。認知症サポーター養成講座。</p>	<p>社協と協働し、見守り事業・協力業者を増やし、連絡会の開催。</p>	○	<p>・包括機能の周知広報。 ・認知症サポーター養成講座への参加。</p>	<p>・包括機能の周知広報。 ・認知症サポーター養成講座への参加。</p>	<p>社協と協働し、見守り事業・協力業者を増やし、連絡会の開催。</p>	○
	<p>7-5) ネットワークの充実 *地域のさまざまな人々が出会い、協議し協働するしくみを充実します。 <キーワード> ・地域福祉計画を周知する ・各々の「実施プラン」を持ち寄り、共有する <重点的に進める取組> 「地域発信型ネットワーク」を充実します</p>	特になし	特になし	特になし		<p>施設他部署へ、地域福祉会各を周知広報する</p>	<p>施設他部署へ、地域福祉会各を周知広報する</p>	<p>社会福祉協議会</p>	△

第2次芦屋市地域福祉計画の実施プラン票

〔団体名 (特活) あしやNPO センター〕

◎=よくできている
○=できている
△=もう少し

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること (27年度)	今後取り組みたいこと (28年度)	連携・協働したらできること (28年度)	取組状況	今取り組んでいること (28年度)	今後取り組みたいこと (29年度)	連携・協働したらできること (29年度)	取組状況
1. 地域福祉への関心と理解を広げます	1-1) 地域福祉の呼びかけ *地域福祉は、一人ひとりの暮らしに関わるものだということを伝えたい。 <キーワード> ・問題への気づきをうながす	NPO団体が支援しやすい環境づくりと相談支援。地域課題解決の仕組みづくりの一環とし、様々な問題を解決するため多様な主体に多方面から団体の課題、ひいては地域の課題を共有し、課題解決に向けた取り組み及び仕組みを考える場の構築。(市民ひろば)	NPO団体への協力支援。市民ひろばの充実。	地域課題を横繋がりで解決するネットワークをつくる。	△	多様な市民団体による「あしや笑顔ネット」が立ち上がった。その中で、つながりの輪を広げるためと活動人口増加を目指して新たなプロジェクトが動き出した。	「777プロジェクト」をきっかけに、団体の活動の場、市民の憩いの場を広げていく。	多様な団体が、団体の強みを生かしたカフェ運営	◎
	1-2) 学習と話しあいの推進 *学校、公民館、地域、職場等のさまざまなところで地域福祉について学び、考えます。 <キーワード> ・自分のライフデザインを考える ・実践につながる学習を進める ・参加型、体験型の学習を進める ・地域の課題を知る、考える、話しあう <重点的に進める取組> ・地域福祉について学んだり、考えたりする機会を増やします	地域課題解決の担い手のひとつとして、芦屋市立あしや市民活動センター登録団体のスキルアップを目的にアンケート調査を実施し、団体の課題を探る。市内NPO団体を中心に団体交流会を定期的で開催している。	芦屋市立あしや市民活動センター登録団体提出報告書のアドバイス及び、市内NPO団体の団体交流会、NPOセミナーを開催。	特になし	○	市内NPO団体の団体交流会やボランティア講座、ボランティアを受け入れる施設のボランティアマネージメント講座などを開催。	前年度と同様、市民が活躍できる場を見つける支援と、楽しく芦屋ライフを過ごせるための意見を出し合える学習の場の提供。	情報の共有	◎
	1-3) 情報の発信・伝達 *地域福祉のさまざまな情報を発信します。 *必要な人に必要な情報が届くよう、きめ細かく伝えます。 *必要な情報を自分で得るように努力します。 <キーワード> ・いろいろな公民の情報を集める ・まとめて発信する ・双方向で発信する ・多様なメディアを活用する ・ICTの利用を促進する、使い方を広める、ルールをつくる ・身近な人が直接つなげる <重点的に進める取組> ・ICTも活用し、情報を細やかに伝える取組を進めます	季刊紙等の紙媒体と、あしや市民活動センター及び、あしやNPOセンターのホームページから団体情報及び、助成金情報を発信している。ダイレクトメール及び紙媒体で助成金情報などは配信している。他団体、他市のセンターとのネットワークにより情報を得て、必要なものはあしや市民活動センター登録団体へ送っている。	前年度と同様に紙媒体とITをツールとして情報発信を行う。	情報共有の場を設ける。	◎	年4回の季刊紙等の紙媒体の発行と、法人と、リードあしやからの団体情報、イベントのお知らせ、助成金情報、ボランティア募集等をホームページ及び、ダイレクトメールから発信している。メールマガジンを月1回送っている。	ボランティアが欲しい、行きたいという双方の情報を一括発信できる仕組みを考えている。	情報の共有	○
2. 暮らしの“困りごと”を適切な支援につなぎます	2-1) ニーズの気づき・発見 *生活の“困りごと”に早めに気づき、自分で対処したり、必要な支援を求める意識を高めます。 <キーワード> ・自らの気づきを支援する ・まわりの人が気づき、伝える ・さりげなく見守る、声をかける ・ひきこもりやセルフネグレクトの人に関わる ・隠れたニーズを探す <重点的に進める取組> ・“たすけ上手”や“たすけられ上手”な人を増やします	特になし	特になし	特になし		ボランティアボードを設置し、自分にあった活動を見つけやすくしている。	HP上でも、一目でわかるボランティア情報コーナーをつくる。	情報の共有	○
	2-2) 相談支援の充実 *身近なところで気軽に相談でき、アドバイスや支援をしたり、専門的な機関につなぐ取組を広げます。 <キーワード> ・身近に、いつでも相談できる ・いろいろな相談を受けて、つなぐ ・どこに、何を相談すれば良いかを知る ・「支えてもらってよい」ことを伝える ・当事者同士で相談する ・地域に出向いて相談する(アウトリーチ) <重点的に進める取組> ・総合相談の仕組みとネットワークを充実します	来館はもとより電話による相談も気軽に受け、専門的なものは当法人の専門職に依頼し、充実した取組を行っている。	ご相談内容によっては出張相談等も受けられるように幅を広げていきたい。	相談の幅を広げるためにも、情報の共有できるネットワークを築きたい。	◎	NPO、自治会、行政、多様な団体からの運営等の相談を受けている。会計や、法律に関することや、専門的なものは、当法人の専門職に依頼し、充実した取り組みを行っている。	相談件数は、年々増加しており、福祉の相談も増えてきているので、専門的なものも学ぶ必要がある。	情報の共有を目指したネットワーク	◎

第2次芦屋市地域福祉計画の実施プラン票

〔団体名 (特活) あしやNPO センター〕

◎=よくできている
○=できている
△=もう少し

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること (27年度)	今後取り組みたいこと (28年度)	連携・協働したらできること (28年度)	取組状況	今取り組んでいること (28年度)	今後取り組みたいこと (29年度)	連携・協働したらできること (29年度)	取組状況
3 ・地域生活を支えるサービスや活動を充実します	<p>3-1) 福祉サービスの充実 *地域で自立して生活できるよう、多様なニーズに応える質の高い福祉サービスを提供します。 <キーワード> ・分野別計画に基づいて推進する ・エンパワメント(その人の力を引き出す)を支援する ・自己評価・第三者評価を推進する <重点的に進める取組> ・各分野別の地域福祉の視点で推進します</p>	特になし	特になし	特になし		特になし	特になし	特になし	
	<p>3-2) 地域福祉活動の推進 *さまざまなニーズにきめ細かく応える多様な地域福祉活動をすすめるよう、一人ひとりが「できること」で参加し、多彩な人々に呼びかけて広げます。 <キーワード> ・分野別計画に基づいて推進する ・地域での“ちょっとした支えあい”を広げる ・さまざまな“困りごと”に解決策を考える ・先駆的な活動の事業化を進める ・福祉の仕事への関心を高める、就業環境を改善する <重点的に進める取組> ・担い手の意識やスキルを高める取組を充実する</p>	特になし	特になし	あしや市民活動フェスタでの参画協働		あしや笑顔ネットによるネットワークから発信している777プロジェクトにおいて多様な団体と話し合いの輪が広がっている。	中高生をターゲットに市民活動の理解と協働することの喜びを伝える。	情報の共有	◎
	<p>3-3) 多様な連携による支援 *新たなニーズや困難な課題が起きたときはみんなで集まって話しあい、力をあわせて取り組みます。 <キーワード> ・コミュニティソーシャルワーク(地域を基盤とした社会福祉の援助)の機能を充実する ・他職種が連携する ・「Joint-Sheet」等を活用した連携を充実する ・共生型のサービスを増やす ・「社会福祉複合施設」を活用する ・新たな“困りごと”に対応する <重点的に進める取組> ・“複雑な困りごと”の解決に向けた取組を充実します</p>	福祉系も含めた市民活動団体との連携による会議体の構築	福祉系も含めた市民活動団体の連携による会議体での芦屋市における課題解決の方向性や行政との連携を目指す。	特になし	△	福祉等の相談は、福祉分野の団体と連携を深めている。	福祉系も含めたネットワークが28年度に構築された。これを生かした運営をしていく。		◎
4 ・権利をまもる取組を充実します	<p>4-1) 権利擁護の意識づくり *お互いのニーズを理解し、権利を尊重して生活する意識を高めます。 <キーワード> ・「権利」を自分のこと(してほしいこと、してほしくないこと)こととして考える ・一人ひとりの多様性を大切にする ・身近な地域での権利擁護支援を推進する</p>	特になし	特になし	特になし					
	<p>4-2) 権利侵害・虐待対応の充実 *権利侵害や虐待を予防するための支援と迅速・的確な対応を、地域の力をあわせてすすめます。 <キーワード> ・弱い立場になりがちな人の暮らし“困りごと”を支える ・障がいのある人などへの「合理的配慮」(場面に応じた調整など)を理解し、進める ・専門職団体等と連携する</p>	特になし	特になし	特になし		障がい者や高齢者関連の相談を受け、専門職団体と連携している。	28年度と同様に、専門職団体と連携をしながら支援を続ける。	情報、課題の共有	△
	<p>4-3) 後見の支援の充実 *判断能力が不十分な人が自立した生活ができるよう、支援します。 <キーワード> ・市民後見人、法定後見機関等を増やす ・可能な限り本人が意思決定できるように支援する</p>	特になし	特になし	特になし					

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること (27年度)	今後取り組みたいこと (28年度)	連携・協働したらできること (28年度)	取組状況	今取り組んでいること (28年度)	今後取り組みたいこと (29年度)	連携・協働したらできること (29年度)	取組状況	
5 人とのつながりを広げます	5-1) 地域でのつながりづくり *あいさつや交流を積極的に行い、困ったときにはたすけあえるつながりと“絆”を広げます。 *地域で支えあうために必要な個人情報の共有について、話し合いをすすめます。 <キーワード> ・自治会、町内会の活動を支援する、参加を呼びかける ・マンション等でも取り組む ・多様な世代や属性の人が交流する、ゆるやかにつながる ・ひとりぼっちをつくらない ・”誰かとどこかで”つながる ・つなぎ役やファシリテーター（おせっかい）を増やす ・地域の課題を地域で解決する ・福祉への関心と活動を活かした「福祉でまちづくり」をすすめる	団体交流会を定期的を開催し、団体間のつながりや、団体の課題を話し合う場を設けている。	27年度同様に団体交流会を定期的に関く。 あしや市民活動フェスタでの団体間やボランティアとの繋がりを深める工夫をする。	特になし	◎	団体のネットワークにおいて地域の課題として話し合いを重ねている。	定期的な居場所を、団体と連携して構築していく。	団体の参画	○	
6 安心・安全でバリアのない生活環境をつくります	6-1) 災害時の支援 *災害時にだれもが安全に避難できるよう、日頃から準備をすすめます。 <キーワード> ・いざというときのためのつながりをつくる ・情報の伝達、安否確認の仕組みをつくる 多様なニーズに対応できる避難所（地域の避難所、福祉避難所）を確保する ・平常時からの取組を進める	団体を中心に消防本部に協力をお願いし、AED講習会及び避難経路の確認を行っている。	平成27年度同様にAED講習会を定期的に行い、消防訓練、避難訓練を強化する。	特になし	○	消防訓練、震災時の避難訓練、救急救命訓練を会館利用者を巻き込んで開催した。	平成28年度と同様なものをさらにシナリオ化し、より多くの団体に参加していただき開催する。	団体の参画	○	
	6-2) バリアフリーのまちづくり *だれもが安心して快適に外出し、社会参加ができる環境をつくります。 <キーワード> ・公共交通や移送サービスを充実する ・バリアフリーの情報を発信する ・出前型のサービスなどの推進	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	
	6-3) 防犯・交通安全の推進 *犯罪や事故のない安全なまちを、地域の力をあわせてつくります。 <キーワード> ・気づいた人が声をかける	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし
	6-4) 住環境の充実 *犯罪や事故のない安全なまちを、地域の力をあわせてつくります。 <キーワード> ・ニーズに応じて計画的に整備する	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること (27年度)	今後取り組みたいこと (28年度)	連携・協働したらできること (28年度)	取組状況	今取り組んでいること (28年度)	今後取り組みたいこと (29年度)	連携・協働したらできること (29年度)	取組状況
7. 地域福祉の活動を支えるしくみを充実します	<p>7-1) 活動拠点の充実</p> <p>* 地域の多様な資源を活かして、利用しやすい活動拠点を増やします。</p> <p><キーワード></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域内外の資源を有効に活用する ・社会貢献を進める <p><重点的に進める取組></p> <p>身近な「つながりの拠点」づくりを進めます</p>	<p>センター内のアンケート調査を実施し、年4回発行の季刊紙上で意見に対する回答を行っている。</p>	<p>アンケート調査を継続し、利用傾向の分析を行い、利用者により使いやすくなるよう工夫する。</p>	特になし	○	<p>常時のアンケート調査と結果を館内に張り出したり、季刊紙やホームページ上で意見に対する回答を行っている。</p>	<p>アンケート調査から、センターの利用を充実させる。活動団体で運営するカフェをオープンし継続させる。</p>		○
	<p>7-2) 活動財源の確保</p> <p>* 地域福祉活動への参加としての“寄附文化”を広げながら、多様な方法で活動の財源を生み出します。</p> <p><キーワード></p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄附文化を広げる ・目的に応じた寄附の呼びかけや仕組みづくりを進める 	<p>助成金情報の提供と、相談業務を行っている。団体交流スペースを利用し、団体活動の紹介と団体のオリジナルグッズの販売により活動資源を得るよう提供している。</p>	平成27年度と同様	特になし	◎	<p>助成金情報をダイレクトメールやホームページ掲載で団体へ提供している。団体交流スペースを利用し、団体活動の紹介と団体のオリジナルグッズの販売により活動資源を得るよう提供している。</p>	<p>従来の助成金情報に加え、クラウドファンディングなどのレクチャーも行っていききたい。</p>		◎
	<p>7-3) 活動への支援</p> <p>* “楽しく”, “しっかり” 活動できるよう支援するしくみと取組を充実します。</p> <p><キーワード></p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しく気軽にできる活動を増やす ・有償の活動やコミュニティビジネスも進める ・仕事などの経験、能力を活かした活動を進める ・新たな活動やグループづくりを支援する ・コミュニティワーク（地域福祉活動支援）を充実する <p><重点的に進める取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ひとり一役運動」を推進し、気軽に参加できる機会を増やします ・健康づくりや生きがいづくりの活動を進めます 	<p>団体の企画講座の応援として、企画、広報、集客の相談と、助成金を提供している。あしや市民活動フェスタや団体交流会での繋がりや紹介の場を提供している。</p>	平成27年度同様	特になし	◎	<p>団体の自主講座企画応援事業を継続している。あしや市民活動フェスタや、夏休み子どもスペシャル等で団体の活躍の場と交流の場を提供している。</p>	<p>平成28年度同様にあらゆる事業に団体を巻き込んで協力し、交流する。</p>		○
	<p>7-4) 協働活動・事業の推進</p> <p>* “公と民”, “民と民” の多様な協働で、具体的な活動や事業をすすめます。</p> <p><キーワード></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域間で連携する ・NPOや事業者等との連携を推進する ・公民協働、市民と専門職等の協働による活動、事業を推進する ・行政内の協働、連携を推進する ・地域福祉推進計画との連動する 	<p>多様な活動団体からなる会議体による課題解決の場を構築する。</p>	<p>多様な活動団体からなる会議体による課題解決の場を充実させる。</p>	特になし	○	<p>多様な団体によるネットワーク「あしや笑顔ネット」で地域の課題解決の仕組みづくりを協議している。</p>	<p>平成28年度同様、さらなる飛躍の場としたい。</p>		◎
	<p>7-5) ネットワークの充実</p> <p>* 地域のさまざまな人々が出会い、協議し協働するしくみを充実します。</p> <p><キーワード></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉計画を周知する ・各々の「実施プラン」を持ち寄り、共有する <p><重点的に進める取組></p> <p>「地域発信型ネットワーク」を充実します</p>	<p>多様な団体の交流、目的を絞った団体間の交流、阪神間の交流と、様々なネットワークの場を持っている。</p>	<p>多様なネットワークから話し合う場だけでなく、ワークできる場にしていきたい。</p>	特になし	○	<p>多様な団体によるネットワーク「あしや笑顔ネット」で地域の課題解決の仕組みづくりを協議している。</p>	<p>平成28年度に「あしや笑顔ネット」から発足したプロジェクトを実施し、そこから新たなネットワークを生み出す仕組みを考える。</p>		◎

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること (27年度)	今後取り組みたいこと (28年度)	連携・協働したら できること (28年度)	取組 状況	今取り組んでいること (28年度)	今後取り組みたいこと (29年度)	連携・協働したら できること(29年 度)	取組状況
1 ・地域福祉への関心と理解を広げます	1-1) 地域福祉の呼びかけ *地域福祉は、一人ひとりの暮らしに関わるものだとことを伝えあいます。 <キーワード> ・問題への気づきをうながす	自治会新規加入の促進及び例会の充実。	例会時種々の勉強会を企画し集まり易い会合にする。	生涯学習課他関係機関。	◎	自治会への新規加入の促進及び例会の充実	例会時、”地域の困りごと”について意見を引きだす。	新規加入促進については市民参画課、住民課窓口に協力をお願いする	◎
	1-2) 学習と話しあいの推進 *学校、公民館、地域、職場等のさまざまなところで地域福祉について学び、考えます。 <キーワード> ・自分のライフデザインを考える ・実践につながる学習を進める ・参加型、体験型の学習を進める ・地域の課題を知る、考える、話しあう <重点的に進める取組> ・地域福祉について学んだり、考えたりする機会を増やします	自治会ネットワークを通し”身近な困りごと”を取り上げる。	地域の”身近な困りごと” ”関心事”について勉強会を企画する。	特になし	○	自治会ネットワークを通し”身近な困りごと”を取り上げる。	地域の”身近な困りごと” ”関心事”について勉強会等を企画する。	関係機関・生涯学習課	○
	1-3) 情報の発信・伝達 *地域福祉のさまざまな情報を発信します。 *必要な人に必要な情報が届くよう、きめ細かく伝えます。 *必要な情報を自分で得るように努力します。 <キーワード> ・いろいろな公民の情報を集める ・まとめて発信する ・双方向で発信する ・多様なメディアを活用する ・ICTの利用を促進する、使い方を広める、ルールをつくる ・身近な人が直接つなげる <重点的に進める取組> ・ICTも活用し、情報を細やかに伝える取組を進めます	2ヶ月毎に自治会独自の「ゴミカレンダー」を作成し、会員に配布している。種々の情報を盛り込む 自治会会合において”身近な困りごと”を共有し解決に努力する。 市ホームページ・市議会だより・広報あしや等目を通す。	よりきめ細かな情報を掲載する。 例会時の話し合い事項をできる限り会員に伝える。 会合において左で得られた情報を出席者に伝える。	広報紙「あしや」全戸配布必要。	◎	2ヶ月毎、自治会独自の「ゴミカレンダー」に種々の情報を盛り込み、全戸配布する。	限られたスペースによりきめ細かな情報を盛り込む。	広報紙「あしや」の活用	◎
2 ・暮らしの“困りごと”を適切な支援につなぎます	2-1) ニーズの気づき・発見 *生活の“困りごと”に早めに気づき、自分で対処したり、必要な支援を求める意識を高めます。 <キーワード> ・自らの気づきを支援する ・まわりの人が気づき、伝える ・さりげなく見守る、声をかける ・ひきこもりやセルフネグレクトの人に関わる ・隠れたニーズを探す <重点的に進める取組> ・“たすけ上手”や“たすけられ上手”な人を増やします	身近な“困りごと”は自治会としても取り組むが、住民自身でも直接行政に持ちかけるシステムがあることを知らせる。	地域の困りごとは素早く関係部署に繋ぎ解決を図る、また住民自身も直接行政に働きかけるようにする。高齢者支援等福祉に関することは民生委員に繋ぐようにする。	「ごみ出しマナー」の周知と共にカラス対策及び収集後のネット片づけ手間を省くため収集ボックス設置を関係所管にお願いしたい。	○	カラス対策及び収集後のネットの片づける手間を省くため収集ボックスを条件の合う場所については自治会で促進している。	28年度に引き続きゴミボックスを促進、条件に適しない場所については「ゴミ出しマナー」を周知させる。	関係課の協力	◎
	2-2) 相談支援の充実 *身近なところで気軽に相談でき、アドバイスや支援をしたり、専門的な機関につなぐ取組を広げます。 <キーワード> ・身近に、いつでも相談できる ・いろいろな相談を受けて、つなぐ ・どこに、何を相談すれば良いかを知る ・「支えてもらってよい」ことを伝える ・当事者同士で相談する ・地域に向いて相談する(アウトリーチ) <重点的に進める取組> ・総合相談の仕組みとネットワークを充実します	自治会での“困りごと”は身近な問題が主である(例 ゴミ、カラス、猫、猪、道路補修等) 高齢者支援等福祉に関する事項は民生委員・児童委員、福祉推進委員に相談している。	身近な困りごとを気軽に相談できる雰囲気をつくる、民生委員ともたえず連絡を取れるよう連携を図る。自治会定例会に民生・児童委員、福祉推進委員に出席をお願いしている。	民生・児童委員、福祉推進委員、市関係機関。	○	高齢者支援等福祉に関する事項は民生委員・児童委員、福祉推進委員と連携を図る。	”身近な困りごと”に気軽に相談できる雰囲気を作る、自治会定例会に子ども会、福祉推進委員も出席、一緒に協議する。	関係機関、福祉推進委員、子ども会、老人会	○

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること (27年度)	今後取り組みたいこと (28年度)	連携・協働したら できること (28年度)	取組 状況	今取り組んでいること (28年度)	今後取り組みたいこと (29年度)	連携・協働したら できること(29年 度)	取組状況
3 ・地域生活を支えるサービスや活動を充実します	<p>3-1) 福祉サービスの充実 *地域で自立して生活できるよう、多様なニーズに応える質の高い福祉サービスを提供します。 <キーワード> ・分野別計画に基づいて推進する ・エンパワメント(その人の力を引き出す)を支援する ・自己評価・第三者評価を推進する <重点的に進める取組> ・各分野別の地域福祉の視点で推進します</p>	特になし	特になし	特になし		特になし	特になし	特になし	
	<p>3-2) 地域福祉活動の推進 *さまざまなニーズにきめ細かく応える多様な地域福祉活動をすすめるよう、一人ひとりが「できること」で参加し、多彩な人々に呼びかけて広げます。 <キーワード> ・分野別計画に基づいて推進する ・地域での“ちょっとした支えあい”を広げる ・さまざまな“困りごと”に解決策を考える ・先駆的な活動の事業化を進める ・福祉の仕事への関心を高める、就業環境を改善する <重点的に進める取組> ・担い手の意識やスキルを高める取組を充実する</p>	地域の様々な催しにより多くの住民が参加するように努めたい。	地域の様々な催しを企画し、より多くの住民が参加するよう働きかける。	特になし	○	地域の種々の催しにより多くの住民が参加するよう促す。	地域の種々の催しを企画し、より多くの住民が参加するよう働きかける。	関係機関	○
	<p>3-3) 多様な連携による支援 *新たなニーズや困難な課題が起きたときはみんなで集まって話しあい、力をあわせて取り組みます。 <キーワード> ・コミュニティソーシャルワーク(地域を基盤とした社会福祉の援助)の機能を充実する ・他職種が連携する ・「Joint-Sheet」等を活用した連携を充実する ・共生型のサービスを増やす ・「社会福祉複合施設」を活用する ・新たな“困りごと”に対応する <重点的に進める取組> ・“複雑な困りごと”の解決に向けた取組を充実します</p>	今後とも山手地区小地域福祉ブロック会議で勉強し相談を掛ける。	小地域福祉ブロック会議に出席し取組について勉強する。	市関係機関、社会福祉協議会。	○	三条地区小地域福祉ブロック会議等で協議する。	左同	市関係機関・社会福祉協議会	○
4 ・権利をまもる取組を充実します	<p>4-1) 権利擁護の意識づくり *お互いのニーズを理解し、権利を尊重して生活する意識を高めます。 <キーワード> ・「権利」を自分のこと(してほしいこと、してほしくないこと)こととして考える ・一人ひとりの多様性を大切にする ・身近な地域での権利擁護支援を推進する</p>	特になし	特になし	特になし		特になし	特になし	特になし	
	<p>4-2) 権利侵害・虐待対応の充実 *権利侵害や虐待を予防するための支援と迅速・的確な対応を、地域の力をあわせてすすめます。 <キーワード> ・弱い立場になりがちな人の暮らし“困りごと”を支える ・障がいのある人などへの「合理的配慮」(場面に応じた調整など)を理解し、進める ・専門職団体等と連携する</p>	特になし	特になし	特になし		特になし	特になし	特になし	
	<p>4-3) 後見的支援の充実 *判断能力が不十分な人が自立した生活ができるよう、支援します。 <キーワード> ・市民後見人、法定後見機関等を増やす ・可能な限り本人が意思決定できるように支援する</p>	特になし	特になし	特になし		特になし	特になし	特になし	

第2次芦屋市地域福祉計画の実施プラン票

〔 団体名 三条町自治会 〕

◎=よくできている
○=できている
△=もう少し

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること (27年度)	今後取り組みたいこと (28年度)	連携・協働したら できること (28年度)	取組 状況	今取り組んでいること (28年度)	今後取り組みたいこと (29年度)	連携・協働したら できること(29年 度)	取組状況
5 ・ 人 と 人 の つ な が り を 広 げ ま す	5-1) 地域でのつながりづくり *あいさつや交流を積極的に行い、困ったときにはたすけあえるつながりと“絆”を広げます。 *地域で支えあうために必要な個人情報の共有について、話し合いをすすめます。 <キーワード> ・自治会、町内会の活動を支援する、参加を呼びかける ・マンション等でも取り組む ・多様な世代や属性の人が交流する、ゆるやかにつながる ・ひとりぼっちをつくらない ・”誰かとどこかで”つながる ・つなぎ役やファシリテーター（おせっかい）を増やす ・地域の課題を地域で解決する ・福祉への関心と活動を活かした「福祉でまちづくり」をすすめる	自治会活動の目的は地域の見知り合いを増やしことにある、そのため種々の催しを企画する。	「災害時要配慮者支援」は地域の見知り合いを増やし絆を深めることにある、そのことが自治会活動の重要な目的である。	自治会・老人会・子ども会・福祉関係委員・市関係機関。	○	自治会活動の目的は「地域の見知り合いを増やす」ことにある、「災害時要配慮者支援」について自治会三役・常任委員、民生委員・児童委員で取り組みのため協議を始めた。	「災害時要配慮者支援」についてより具体的な支援策を協議したい。	市関係機関へ名簿の充実についてお願いしたい	○
6 ・ 安 心 ・ 安 全 で バ リ ア の な い 生 活 環 境 を つ く り ま す	6-1) 災害時の支援 *災害時にだれもが安全に避難できるよう、日頃から準備をすすめます。 <キーワード> ・いざというときのためのつながりをつくる ・情報の伝達、安否確認の仕組みをつくる 多様なニーズに対応できる避難所（地域の避難所、福祉避難所）を確保する ・平常時からの取組を進める	自治会例会時「土砂災害について」出前講座を開催し防災について勉強した。	三条コミスク地区総合防災訓練を毎年続ける。	市防災安全課、道路課、消防本部、消防分団、警察署。	◎	「土砂災害時の避難」について常に関心を持つように仕向ける。三条集会所避難場所集合時28年度版「防災情報マップ」を配る。	三条コミスク地域総合防災訓練への住民の積極的参加を促す。災害時連絡網を作成したい。	市防災安全課・道路課・消防本部・分団・警察署等	◎
	6-2) バリアフリーのまちづくり *だれもが安心して快適に外出し、社会参加ができる環境をつくれます。 <キーワード> ・公共交通や移送サービスを充実する ・バリアフリーの情報を発信する ・出前型のサービスなどの推進	地域の交通手段確保について必要性を感じている。	自治会地域でも山手地域と平地地域があり必要性に差があり、取組が難しい。	行政、地元市議会議員。	△	地域の交通手段の確保については必要性を感じている。	自治会地域でも山手地域と平地地域で必要性に温度差があり取組みが難しい。		△
	6-3) 防犯・交通安全の推進 *犯罪や事故のない安全なまちを、地域の力をあわせてつくりまします。 <キーワード> ・気づいた人が声をかける	「土砂災害」について勉強会を26年、27年度と行った。	「防犯」について勉強会を企画したい。	市関係機関・芦屋警察署。	○	警察署生活安全課作成「振り込み詐欺ニュース」、芦屋市建設総務課「防犯サポートブック」を全戸配布した。	全戸配布した内容について理解を深めるよう努力する。	市関係機関・警察署	◎
	6-4) 住環境の充実 *犯罪や事故のない安全なまちを、地域の力をあわせてつくりまします。 <キーワード> ・ニーズに応じて計画的に整備する	特になし	特になし	住環境整備補助制度の周知は行政で積極的に行ってほしい。		街灯・カーブミラーなど気が付いた個所については行政に速やかにお願いする。	左に同じ	市関係機関・警察署	○

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること (27年度)	今後取り組みたいこと (28年度)	連携・協働したら できること (28年度)	取組 状況	今取り組んでいること (28年度)	今後取り組みたいこと (29年度)	連携・協働したら できること(29年 度)	取組状況	
7 ・ 地 域 福 祉 の 活 動 を 支 え る し く み を 充 実 し ま す	7-1) 活動拠点の充実 *地域の多様な資源を活かして、利用しやすい活動拠点を増やします。 <キーワード> ・地域内外の資源を有効に活用する ・社会貢献を進める <重点的に進める取組> 身近な「つながりの拠点」づくりを進めます	三条地区集会所の利用率向上。	自治会会合は集会所、コミスク室を交互に使用して山手地域、平地地域の公平を図っている。	特になし	◎	三条地区は活動拠点については恵まれている。	自治会会合は三条地区集会所・コミスク室を交互に使用し山手地域、平地地域会員が集まりやすいようにする。	特になし	◎	
	7-2) 活動財源の確保 *地域福祉活動への参加としての“寄附文化”を広げながら、多様な方法で活動の財源を生み出します。 <キーワード> ・寄附文化を広げる ・目的に応じた寄附の呼びかけや仕組みづくりを進める			28年度の募金方法は改めて検討するが出来れば共同募金は個別募集としたい。	特になし	◎	赤十字募金は自治会費より一括拠出、月1回古紙回収報奨金を財源にゴミ袋全戸配布、カラス除けネット・ボックスに補助金を出す。	共同募金は福祉関係に還元されているので個別募金とする。	特になし	◎
	7-3) 活動への支援 *“楽しく”、“しっかり”活動できるよう支援するしくみと取組を充実します。 <キーワード> ・楽しく気軽にできる活動を増やす ・有償の活動やコミュニティビジネスも進める ・仕事などの経験、能力を活かした活動を進める ・新たな活動やグループづくりを支援する ・コミュニティワーク（地域福祉活動支援）を充実する <重点的に進める取組> ・「ひとり一役運動」を推進し、気軽に参加できる機会を増やします ・健康づくりや生きがいづくりの活動を進めます	(自治会連合会) 各ブロック会議に担当三役出席、課題解決を支援。	特になし	特になし			(自治会連合会) 自治会連合会三役の交代及び27年度に加入自治会を対象に実施した『自治会等の活動に関するアンケート調査』の結果をもとに課題を抽出、下記の専門委員会を設けた。 1. 「自治会活動の手引き」作成委員会 ・自治会の役割 ・自治会の運営 ・役員の仕事 ・自治会への加入促進活動 ・補助金、相談窓口 ・自治会連合会とは 2. 「自治会等の活動活性化策」の検討委員会 ・自治会等の活動の魅力を高める策 ・若い世代に活躍してもらえる組織運営等の検討 ・他町連携による活動策 3. 「自治会等と行政とのパートナーシップ」の強化策検討委員会 ・自治会等活動への行政職員の参加を促す仕組み ・自治会等の課題による行政所管参集 ・年間スケジュールの管理による連絡手段の交通整理 ・附属機関への委員選出方法の見直し			
	7-4) 協働活動・事業の推進 *“公と民”、“民と民”の多様な協働で、具体的な活動や事業をすすめます。 <キーワード> ・地域間で連携する ・NPOや事業者等との連携を推進する ・公民協働、市民と専門職等の協働による活動、事業を推進する ・行政内の協働、連携を推進する ・地域福祉推進計画との連動する	(自治会連合会) 「災害時要配慮者支援」は行政で自治会連合会各ブロック毎に説明会、個人情報保護研修会を開催、準備のできた自治会（防災会）から取り組む。	特になし	特になし	市防災安全課その他関係所管。		以上3委員会で検討した結果を28年度素案作成、29年度成案を得て、全自治会へ配布する			◎
	7-5) ネットワークの充実 *地域のさまざまな人々が出会い、協議し協働するしくみを充実します。 <キーワード> ・地域福祉計画を周知する ・各々の「実施プラン」を持ち寄り、共有する <重点的に進める取組> 「地域発信型ネットワーク」を充実します	(自治会連合会) 各ブロック会議に担当三役出席、課題解決を支援。	特になし	特になし	市関係所管					

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること (27年度)	今後取り組みたいこと (28年度)	連携・協働したら できること (28年度)	取組 状況	今取り組んでいること (28年度)	今後取り組みたいこと (29年度)	連携・協働したら できること(29年 度)	取組 状況
1 ・地域福祉への関心と理解を広げます	1-1) 地域福祉の呼びかけ *地域福祉は、一人ひとりの暮らしに関わるものだということを伝えあいます。 <キーワード> ・問題への気づきをうながす					各自治会の役員会に参加し、老人クラブの活動状況を伝える	同左	自治会、老人クラブの活動を整理する	△
	1-2) 学習と話しあいの推進 *学校、公民館、地域、職場等のさまざまなところで地域福祉について学び、考えます。 <キーワード> ・自分のライフデザインを考える ・実践につながる学習を進める ・参加型、体験型の学習を進める ・地域の課題を知る、考える、話しあう <重点的に進める取組> ・地域福祉について学んだり、考えたりする機会を増やします					芦老連でリーダー研修会や若手委員会研修会を開催	同左		◎
	1-3) 情報の発信・伝達 *地域福祉のさまざまな情報を発信します。 *必要な人に必要な情報が届くよう、きめ細かく伝えます。 *必要な情報を自分で得るように努力します。 <キーワード> ・いろいろな公民の情報を集める ・まとめて発信する ・双方向で発信する ・多様なメディアを活用する ・ICTの利用を促進する、使い方を広める、ルールをつくる ・身近な人が直接つなげる <重点的に進める取組> ・ICTも活用し、情報を細やかに伝える取組を進めます					芦老連にて情報紙「ハピネスクラブ」を発行し、芦老連の毎日の活動を各会員に配布	内容の充実に努める		○
2 ・暮らしの“困りごと”を適切な支援につなぎます	2-1) ニーズの気づき・発見 *生活の“困りごと”に早めに気づき、自分で対処したり、必要な支援を求める意識を高めます。 <キーワード> ・自らの気づきを支援する ・まわりの人が気づき、伝える ・さりげなく見守る、声をかける ・ひきこもりやセルフネグレクトの人に関わる ・隠れたニーズを探す <重点的に進める取組> ・“たすけ上手”や“たすけられ上手”な人を増やします					毎週1回の健康体操時に会員の状況を把握する 誕生日の方に毎月1回訪問し、面接する。	同左		○
	2-2) 相談支援の充実 *身近なところで気軽に相談でき、アドバイスや支援をしたり、専門的な機関につなぐ取組を広げます。 <キーワード> ・身近に、いつでも相談できる ・いろいろな相談を受けて、つなぐ ・どこに、何を相談すれば良いかを知る ・「支えてもらってよい」ことを伝える ・当事者同士で相談する ・地域に出向いて相談する(アウトリーチ) <重点的に進める取組> ・総合相談の仕組みとネットワークを充実します					上記のニュースを得るか、訪問時に現況把握と必要に応じ、支援する	同左		○

第2次芦屋市地域福祉計画の実施プラン票

〔団体名 老人クラブ連合会〕

◎=よくできている
○=できている
△=もう少し

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること (27年度)	今後取り組みたいこと (28年度)	連携・協働したら できること (28年度)	取組 状況	今取り組んでいること (28年度)	今後取り組みたいこと (29年度)	連携・協働したら できること(29年 度)	取組 状況
3 ・地域生活を支えるサ ービスや活動を充実し ます	<p>3-1) 福祉サービスの充実 *地域で自立して生活できるよう、多様なニーズに応える質の高い福祉サービスを提供します。 <キーワード> ・分野別計画に基づいて推進する ・エンパワメント(その人の力を引き出す)を支援する ・自己評価・第三者評価を推進する <重点的に進める取組> ・各分野別の地域福祉の視点で推進します</p>					芦老連は単位クラブブロッ クの活動を支援する	同左		◎
	<p>3-2) 地域福祉活動の推進 *さまざまなニーズにきめ細かく応える多様な地域福祉活動をすすめるよう、一人ひとりが「できること」で参加し、多彩な人々に呼びかけて広げます。 <キーワード> ・分野別計画に基づいて推進する ・地域での”ちょっとした支えあい”を広げる ・さまざまな”困りごと”に解決策を考える ・先駆的な活動の事業化を進める ・福祉の仕事への関心を高める、就業環境を改善する <重点的に進める取組> ・担い手の意識やスキルを高める取組を充実する</p>					芦老連にて、介護予防、健 康づくり、リーダー養成セ ミナーを開催している ブロックや単位クラブの勉 強会を開催する	セミナーの内容の拡大		◎
	<p>3-3) 多様な連携による支援 *新たなニーズや困難な課題が起きたときはみんなで集まって話しあい、力をあわせて取り組みます。 <キーワード> ・コミュニティソーシャルワーク(地域を基盤とした社会福祉の援助)の機能を充実する ・他職種が連携する ・「Joint-Sheet」等を活用した連携を充実する ・共生型のサービスを増やす ・「社会福祉複合施設」を活用する ・新たな”困りごと”に対応する <重点的に進める取組> ・“複雑な困りごと”の解決に向けた取組を充実します</p>					「ハピネスクラブ芦屋」を 年に3回発行 「芦老連活動状況」を月に 1回発行	内容の充実		○
4 ・権利をまもる取組を充 実します	<p>4-1) 権利擁護の意識づくり *お互いのニーズを理解し、権利を尊重して生活する意識を高めます。 <キーワード> ・「権利」を自分のこと(してほしいこと、してほしくないこと)こととして考える ・一人ひとりの多様性を大切にする ・身近な地域での権利擁護支援を推進する</p>								
	<p>4-2) 権利侵害・虐待対応の充実 *権利侵害や虐待を予防するための支援と迅速・的確な対応を、地域の力をあわせてすすめます。 <キーワード> ・弱い立場になりがちな人の暮らし”困りごと”を支える ・障がいのある人などへの「合理的配慮」(場面に応じた調整など)を理解し、進める ・専門職団体等と連携する</p>								
	<p>4-3) 後見的支援の充実 *判断能力が不十分な人が自立した生活ができるよう、支援します。 <キーワード> ・市民後見人、法定後見機関等を増やす ・可能な限り本人が意思決定できるように支援する</p>								

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること (27年度)	今後取り組みたいこと (28年度)	連携・協働したら できること (28年度)	取組 状況	今取り組んでいること (28年度)	今後取り組みたいこと (29年度)	連携・協働したら できること(29年 度)	取組 状況
5 ・人 と 人 の つ な が り を 広 げ ま す	5-1) 地域でのつながりづくり *あいさつや交流を積極的に行い、困ったときにはたすけあえるつながりと“絆”を広げます。 *地域で支えあうために必要な個人情報の共有について、話し合いをすすめます。 <キーワード> ・自治会、町内会の活動を支援する、参加を呼びかける ・マンション等でも取り組む ・多様な世代や属性の人が交流する、ゆるやかにつながる ・ひとりぼっちをつくらない ・”誰かとどこかで”つながる ・つなぎ役やファシリテーター（おせっかい）を増やす ・地域の課題を地域で解決する ・福祉への関心と活動を活かした「福祉でまちづくり」をすすめる					芦老連の文芸スポーツ活動を通じて絆づくりに努める町内、市内の清掃や資源ごみの回収等自治会に協力する	クラブ参加者の増員		○
6 ・安 心 ・安 全 で バ リ ア の な い 生 活 環 境 を つ く り ま す	6-1) 災害時の支援 *災害時にだれもが安全に避難できるよう、日頃から準備をすすめます。 <キーワード> ・いざというときのためのつながりをつくる ・情報の伝達、安否確認の仕組みをつくる 多様なニーズに対応できる避難所（地域の避難所、福祉避難所）を確保する ・平常時からの取組を進める					各町内の防災避難等活動に協力する	防災活動の限界を考慮する		○
	6-2) バリアフリーのまちづくり *だれもが安心して快適に外出し、社会参加ができる環境をつくれます。 <キーワード> ・公共交通や移送サービスを充実する ・バリアフリーの情報を発信する ・出前型のサービスなどの推進					市のバリアフリー化に積極的に協力する	同左		○
	6-3) 防犯・交通安全の推進 *犯罪や事故のない安全なまちを、地域の力をあわせてつくりまします。 <キーワード> ・気づいた人が声をかける					交通安全教室を開催し、各単位クラブの役員はワンポイントリーダーに就任	同左		○
	6-4) 住環境の充実 *犯罪や事故のない安全なまちを、地域の力をあわせてつくりまします。 <キーワード> ・ニーズに応じて計画的に整備する								

第2次芦屋市地域福祉計画の実施プラン票

〔団体名 老人クラブ連合会〕

◎=よくできている
○=できている
△=もう少し

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること (27年度)	今後取り組みたいこと (28年度)	連携・協働したら できること (28年度)	取組 状況	今取り組んでいること (28年度)	今後取り組みたいこと (29年度)	連携・協働したら できること(29年 度)	取組 状況
7. 地域福祉の活動を支えるしくみを充実します	<p>7-1) 活動拠点の充実 *地域の多様な資源を活かして、利用しやすい活動拠点を増やします。 ＜キーワード＞ ・地域内外の資源を有効に活用する ・社会貢献を進める ＜重点的に進める取組＞ 身近な「つながりの拠点」づくりを進めます</p>					青少年センター、運動場、集会所、市民センター等で活動を行っている	同左		○
	<p>7-2) 活動財源の確保 *地域福祉活動への参加としての“寄附文化”を広げながら、多様な方法で活動の財源を生み出します。 ＜キーワード＞ ・寄附文化を広げる ・目的に応じた寄附の呼びかけや仕組みづくりを進める</p>					資源ごみの回収やチャリティーバザーの開催を行っている	同左		○
	<p>7-3) 活動への支援 *“楽しく”、“しっかり”活動できるよう支援するしくみと取組を充実します。 ＜キーワード＞ ・楽しく気軽にできる活動を増やす ・有償の活動やコミュニティビジネスも進める ・仕事などの経験、能力を活かした活動を進める ・新たな活動やグループづくりを支援する ・コミュニティワーク（地域福祉活動支援）を充実する ＜重点的に進める取組＞ ・「ひとり一役運動」を推進し、気軽に参加できる機会を増やします ・健康づくりや生きがいづくりの活動を進めます</p>					芦老連のブロック活動、文芸、スポーツのクラブ活動には財政支援を行っている	同左		○
	<p>7-4) 協働活動・事業の推進 *“公と民”、“民と民”の多様な協働で、具体的な活動や事業をすすめます。 ＜キーワード＞ ・地域間で連携する ・NPOや事業者等との連携を推進する ・公民協働、市民と専門職等の協働による活動、事業を推進する ・行政内の協働、連携を推進する ・地域福祉推進計画との連動する</p>					「ハピネスカード」を発行し、市内の商店、喫茶店、レストラン、美容院等で得点をお願いし、会員の外出を促す	参加店を増やす		○
	<p>7-5) ネットワークの充実 *地域のさまざまな人々が出会い、協議し協働するしくみを充実します。 ＜キーワード＞ ・地域福祉計画を周知する ・各々の「実施プラン」を持ち寄り、共有する ＜重点的に進める取組＞ 「地域発信型ネットワーク」を充実します</p>					地域の自治会活動に参加	同左		○

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること (27年度)	今後取り組みたいこと (28年度)	連携・協働したら できること (28年度)	取組 状況	今取り組んでいること (28年度)	今後取り組みたいこと (29年度)	連携・協働したら できること(29年 度)	取組 状況
1 地域福祉への関心と理解を広げます	1-1) 地域福祉の呼びかけ *地域福祉は、一人ひとりの暮らしに関わるものだということを伝えあいます。 <キーワード> ・問題への気づきをうながす					・民生委員制度創設百周年に向けて百周年記念誌の作成に取り組み、住民の立場で身近な相談役として活動している民生委員・児童委員の存在を知ってもらうように努める。 ・地域発信型ネットワークの小地域福祉ブロック会議、中学校区福祉ネットワーク会議などで地域福祉についての意識作り。			
	1-2) 学習と話しあいの推進 *学校、公民館、地域、職場等のさまざまなところで地域福祉について学び、考えます。 <キーワード> ・自分のライフデザインを考える ・実践につながる学習を進める ・参加型、体験型の学習を進める ・地域の課題を知る、考える、話しあう <重点的に進める取組> ・地域福祉について学んだり、考えたりする機会を増やします					・地域の住民に正確な情報が伝えられるように毎月総務会、定例会、年4回の専門部会(高齢者部会、母子・父子・児童部会、障がい者(児)部会)、年4回のブロック会などで研修を深めている。 ・トライやる・ウィークの受け入れでスタイ作りや赤ちゃん訪問を生徒と一緒にを行う。 ・夏休み福祉ボランティア 中学校1～3年生対象で3日間、スタイ作り、赤ちゃん訪問、施設訪問などボランティア体験をする。			
	1-3) 情報の発信・伝達 *地域福祉のさまざまな情報を発信します。 *必要な人に必要な情報が届くよう、きめ細かく伝えます。 *必要な情報を自分で得るように努力します。 <キーワード> ・いろいろな公民の情報を集める ・まとめて発信する ・双方向で発信する ・多様なメディアを活用する ・ICTの利用を促進する、使い方を広める、ルールをつくる ・身近な人が直接つなげる <重点的に進める取組> ・ICTも活用し、情報を細やかに伝える取組を進めます					・生きがいデイサービス、高齢者のつどい等で情報を伝える。 ・社協だより、地区福祉だよりを配布。			
2 暮らしの“困りごと”を適切な支援につなぎます	2-1) ニーズの気づき・発見 *生活の“困りごと”に早めに気づき、自分で対処したり、必要な支援を求める意識を高めます。 <キーワード> ・自らの気づきを支援する ・まわりの人が気づき、伝える ・さりげなく見守る、声をかける ・ひきこもりやセルフネグレクトの人に関わる ・隠れたニーズを探す <重点的に進める取組> ・“たすけ上手”や“たすけられ上手”な人を増やします					・住民が住みなれた地で安心安全に暮らせるよう日々見守り、相談、支援そして関係機関につなぐことが民生委員・児童委員の役割。 ・福祉を高める運動研究会 担当地区で課題をもつ高齢者、障がい者、児童などの世帯に対し、各委員が行った調査をもとに行政、事業所、関係機関と共に情報共有する。 ・緊急・災害時要援護者台帳を作成 65才以上の障がい者を含む高齢者、65才未満の障がい者、特に一人暮らし、高齢者世帯を中心に民生委員・児童委員が訪問し、かかりつけ医や緊急連絡先等を聞きとりし、台帳を作成し、日頃の見守りに活用している。			
	2-2) 相談支援の充実 *身近なところで気軽に相談でき、アドバイスや支援をしたり、専門的な機関につなぐ取組を広げます。 <キーワード> ・身近に、いつでも相談できる ・いろいろな相談を受けて、つなぐ ・どこに、何を相談すれば良いかを知る ・「支えてもらってよい」ことを伝える ・当事者同士で相談する ・地域に出向いて相談する(アウトリーチ) <重点的に進める取組> ・総合相談の仕組みとネットワークを充実します					心配ごと相談 民生委員の自宅を相談所とし、住民の困りごとの相談を受ける。			

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること (27年度)	今後取り組みたいこと (28年度)	連携・協働したら できること (28年度)	取組 状況	今取り組んでいること (28年度)	今後取り組みたいこと (29年度)	連携・協働したら できること(29年 度)	取組 状況
3 ・地域生活を支えるサービスや活動を充実します	<p>3-1) 福祉サービスの充実 *地域で自立して生活できるよう、多様なニーズに応える質の高い福祉サービスを提供します。 <キーワード> ・分野別計画に基づいて推進する ・エンパワメント(その人の力を引き出す)を支援する ・自己評価・第三者評価を推進する <重点的に進める取組> ・各分野別の地域福祉の視点で推進します</p>								
	<p>3-2) 地域福祉活動の推進 *さまざまなニーズにきめ細かく応える多様な地域福祉活動をすすめるよう、一人ひとりが「できること」で参加し、多彩な人々に呼びかけて広げます。 <キーワード> ・分野別計画に基づいて推進する ・地域での”ちょっとした支えあい”を広げる ・さまざまな”困りごと”に解決策を考える ・先駆的な活動の事業化を進める ・福祉の仕事への関心を高める、就業環境を改善する <重点的に進める取組> ・担い手の意識やスキルを高める取組を充実する</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・地区福祉委員会で福祉推進委員と協働し、生きがいデイサービス、高齢者のつどいを開催。 ・福祉マップを作成し、見守り活動に利用。 ・あんしんカードを交付。 				
	<p>3-3) 多様な連携による支援 *新たなニーズや困難な課題が起きたときはみんなで集まって話しあい、力をあわせて取り組みます。 <キーワード> ・コミュニティソーシャルワーク(地域を基盤とした社会福祉の援助)の機能を充実する ・他職種が連携する ・「Joint-Sheet」等を活用した連携を充実する ・共生型のサービスを増やす ・「社会福祉複合施設」を活用する ・新たな”困りごと”に対応する <重点的に進める取組> ・”複雑な困りごと”の解決に向けた取組を充実します</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・子育て応援団 兵庫県地域子育てネットワーク事業で芦屋市では、民生委員・児童委員が団長、隊長となり、子育て家庭の応援をする活動。地域の団体と協力し、スタイ作り、赤ちゃん訪問、児童の登下校の見守りなどを行っている。 ・主任児童委員連絡会 月1回正副会長、主任児童委員、子育て推進課、家庭児童相談室、学校教育課が参加し、特に見守りが必要な児童の情報共有をする。 				
4 ・権利をまもる取組を充実します	<p>4-1) 権利擁護の意識づくり *お互いのニーズを理解し、権利を尊重して生活する意識を高めます。 <キーワード> ・「権利」を自分のこと(してほしいこと、してほしくないこと)こととして考える ・一人ひとりの多様性を大切にする ・身近な地域での権利擁護支援を推進する</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター講座、権利擁護のワークショップなどに参加し、研修。 ・住民の状況を確認し、証明事務をする。 				
	<p>4-2) 権利侵害・虐待対応の充実 *権利侵害や虐待を予防するための支援と迅速・的確な対応を、地域の力をあわせてすすめます。 <キーワード> ・弱い立場になりがちな人の暮らし”困りごと”を支える ・障がいのある人などへの「合理的配慮」(場面に応じた調整など)を理解し、進める ・専門職団体等と連携する</p>								
	<p>4-3) 後見的支援の充実 *判断能力が不十分な人が自立した生活ができるよう、支援します。 <キーワード> ・市民後見人、法定後見機関等を増やす ・可能な限り本人が意思決定できるように支援する</p>								

第2次芦屋市地域福祉計画の実施プラン票

〔 団体名 民生児童委員協議会 〕

◎=よくできている
○=できている
△=もう少し

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること (27年度)	今後取り組みたいこと (28年度)	連携・協働したら できること (28年度)	取組 状況	今取り組んでいること (28年度)	今後取り組みたいこと (29年度)	連携・協働したら できること(29年 度)	取組 状況
5 ・ 人 と 人 の つ な が り を 広 げ ま す	5-1) 地域でのつながりづくり *あいさつや交流を積極的に行い、困ったときにはたすけあえるつながりと“絆”を広げます。 *地域で支えあうために必要な個人情報の共有について、話し合いをすすめます。 <キーワード> ・自治会、町内会の活動を支援する、参加を呼びかける ・マンション等でも取り組む ・多様な世代や属性の人が交流する、ゆるやかにつながる ・ひとりぼっちをつくらない ・”誰かとどこかで”つながる ・つなぎ役やファシリテーター（おせっかい）を増やす ・地域の課題を地域で解決する ・福祉への関心と活動を活かした「福祉でまちづくり」をすすめる					・小地域福祉ブロック会議（小学校区の住民全体の会議）に参加し、地域の各組織単独ではなかなか解決できない地域の福祉課題について話し合い、解決に向けて具体的に取り組み、ネットワークを作る。 ・生きがいデイサービス 60才以上対象で各地区で開催。外出の機会を増やす。 ・高齢者のつどい 1人暮らし、高齢者世帯、昼間独居などの方の外出作り、仲間作り。 ・市内5か所で「あい・あいるーむ」を開催し、乳幼児の親子の居場所作りをしている。（子育て推進課主催）			
6 ・ 安 心 ・ 安 全 で バ リ ア の な い 生 活 環 境 を つ く り ま す	6-1) 災害時の支援 *災害時にだれもが安全に避難できるよう、日頃から準備をすすめます。 <キーワード> ・いざという時のためのつながりをつくる ・情報の伝達、安否確認の仕組みをつくる 多様なニーズに対応できる避難所（地域の避難所、福祉避難所）を確保する ・平常時からの取組を進める 6-2) バリアフリーのまちづくり *だれもが安心して快適に外出し、社会参加ができる環境をつくれます。 <キーワード> ・公共交通や移送サービスを充実する ・バリアフリーの情報を発信する ・出前型のサービスなどの推進 6-3) 防犯・交通安全の推進 *犯罪や事故のない安全なまちを、地域の力をあわせてつくりまします。 <キーワード> ・気づいた人が声をかける 6-4) 住環境の充実 *犯罪や事故のない安全なまちを、地域の力をあわせてつくりまします。 <キーワード> ・ニーズに応じて計画的に整備する					災害時要配慮者名簿を自治会、自主防災会、社協などと共有し、災害時だけでなく、日頃からの見守りに活用。			

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること (27年度)	今後取り組みたいこと (28年度)	連携・協働したら できること (28年度)	取組 状況	今取り組んでいること (28年度)	今後取り組みたいこと (29年度)	連携・協働したら できること(29年 度)	取組 状況
7 ・ 地 域 福 祉 の 活 動 を 支 え る し く み を 充 実 し ま す	7-1) 活動拠点の充実 *地域の多様な資源を活かして、利用しやすい活動拠点を増やします。 <キーワード> ・地域内外の資源を有効に活用する ・社会貢献を進める <重点的に進める取組> 身近な「つながりの拠点」づくりを進めます					社協と協働し、集会所などを利用し、地区の生きがいデイサービス、高齢者のつどいを開催。			
	7-2) 活動財源の確保 *地域福祉活動への参加としての“寄附文化”を広げながら、多様な方法で活動の財源を生み出します。 <キーワード> ・寄附文化を広げる ・目的に応じた寄附の呼びかけや仕組みづくりを進める								
	7-3) 活動への支援 *“楽しく”、“しっかり”活動できるよう支援するしくみと取組を充実します。 <キーワード> ・楽しく気軽にできる活動を増やす ・有償の活動やコミュニティビジネスも進める ・仕事などの経験、能力を活かした活動を進める ・新たな活動やグループづくりを支援する ・コミュニティワーク（地域福祉活動支援）を充実する <重点的に進める取組> ・「ひとり一役運動」を推進し、気軽に参加できる機会を増やします ・健康づくりや生きがいづくりの活動を進めます								
	7-4) 協働活動・事業の推進 *“公と民”、“民と民”の多様な協働で、具体的な活動や事業をすすめます。 <キーワード> ・地域間で連携する ・NPOや事業者等との連携を推進する ・公民協働、市民と専門職等の協働による活動、事業を推進する ・行政内の協働、連携を推進する ・地域福祉推進計画との連動する								
	7-5) ネットワークの充実 *地域のさまざまな人々が出会い、協議し協働するしくみを充実します。 <キーワード> ・地域福祉計画を周知する ・各々の「実施プラン」を持ち寄り、共有する <重点的に進める取組> 「地域発信型ネットワーク」を充実します						小地域福祉ブロック会議で、自治会、老人会、子ども会、コミスクなどと地域福祉について話し合い、ネットワークを作る。		

第2次芦屋市地域福祉計画の実施プラン票

団体名 地域福祉アクションプログラム推進協議会

◎=よくできている
○=できている
△=もう少し

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること (27年度)	今後取り組みたいこと (28年度)	連携・協働したらできること (28年度)	取組状況	今取り組んでいること (28年度)	今後取り組みたいこと (29年度)	連携・協働したらできること (29年度)	取組状況
1 地域福祉への関心と理解を広げます	1-1) 地域福祉の呼びかけ *地域福祉は、一人ひとりの暮らしに関わるものだということを伝えあいます。 <キーワード> ・問題への気づきをうながす	特になし	特になし	特になし		特になし	特になし	特になし	
	1-2) 学習と話しあいの推進 *学校、公民館、地域、職場等のさまざまなところで地域福祉について学び、考えます。 <キーワード> ・自分のライフデザインを考える ・実践につながる学習を進める ・参加型、体験型の学習を進める ・地域の課題を知る、考える、話しあう <重点的に進める取組> ・地域福祉について学んだり、考えたりする機会を増やします	・福祉フェア（7月25日開催）では地域で活動されている団体の方から取組について発表していただく「地域福祉アクションアワード」を開催、表彰する。 ・市民が創る福祉プロジェクト展（3月13日開催）では「認知症にやさしいわがまち芦屋をめざして」と題し、予防やケアについて講話をお聞きしたり、手を桜の花に見立てた桜の木を完成させる共同作業、脳トレや昔話などができるテーブルを設け、認知症を考える機会となった。	今求められているテーマを探し、より参加しやすい企画を考える。	行政との協力体制構築。	◎	・福祉フェア（7月23日開催）では昨年度に続き地域で活動されている自治会、打出いこいの場まごのて、芦屋大学の学生さんから取組について発表していただく「地域福祉アクションアワードvol.2」を開催、表彰する。 ・市民が創る福祉プロジェクト展（3月12日開催）では「きて・みて・やってみてinあしや第2弾」とコラボで、第3次芦屋市地域福祉計画策定にかかる検討部会や芦屋市職員構成の創生ワーキングチームとの協働で取り組み、コープデイズ芦屋の協力を得て3階集会室・レストスペースで開催	今求められているテーマを探し、より参加しやすい企画を考える。	・行政との協力体制構築。 ・商業施設とのコラボ	◎
	1-3) 情報の発信・伝達 *地域福祉のさまざまな情報を発信します。 *必要な人に必要な情報が届くよう、きめ細かく伝えます。 *必要な情報を自分で得るように努力します。 <キーワード> ・いろいろな公民の情報を集める ・まとめて発信する ・双方向で発信する ・多様なメディアを活用する ・ICTの利用を促進する、使い方を広める、ルールをつくる ・身近な人が直接つなげる <重点的に進める取組> ・ICTも活用し、情報を細やかに伝える取組を進めます	市民が創る情報紙プロジェクトから「あしやわがまち通信」を発行した。7月に男性の地域デビューをテーマにした第4号を発行し、1月に認知症をテーマにした第5号を発行した。	今後もよりわかりやすく必要な情報を取り上げて作成したい。 特に、女性の地域参加も取り上げたい。	他団体からの情報提供を受けるなど連携することにより、市民が求める情報を発信できる。	◎	市民が創る情報紙プロジェクトから「あしやわがまち通信」を発行した。6号では「地域デビュー第2弾」を発行し、第7号では運動をテーマにスポーツは健康づくりや介護予防になるだけでなく、地域づくりや仲間づくりにつながることを伝えたいと考え発行した。	今後もよりわかりやすく必要な情報を取り上げて作成したい。 特に、女性の地域参加も取り上げたい。	他団体からの情報提供を受けるなど連携することにより、市民が求める情報を発信できる。	◎
す2 暮らしの“困りごと”を適切な支援につなぎます	2-1) ニーズの気づき・発見 *生活の“困りごと”に早めに気づき、自分で対処したり、必要な支援を求める意識を高めます。 <キーワード> ・自らの気づきを支援する ・まわりの人が気づき、伝える ・さりげなく見守る、声をかける ・ひきこもりやセルフネグレクトの人に関わる ・隠れたニーズを探す <重点的に進める取組> ・“たすけ上手”や“たすけられ上手”な人を増やします	特になし	特になし	特になし		特になし	特になし	特になし	
	2-2) 相談支援の充実 *身近なところで気軽に相談でき、アドバイスや支援をしたり、専門的な機関につなぐ取組を広げます。 <キーワード> ・身近に、いつでも相談できる ・いろいろな相談を受けて、つなぐ ・どこに、何を相談すれば良いかを知る ・「支えてもらってよい」ことを伝える ・当事者同士で相談する ・地域に向いて相談する（アウトリーチ） <重点的に進める取組> ・総合相談の仕組みとネットワークを充実します	特になし	特になし	特になし		特になし	特になし	特になし	

第2次芦屋市地域福祉計画の実施プラン票

団体名 地域福祉アクションプログラム推進協議会

◎=よくできている
○=できている
△=もう少し

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること (27年度)	今後取り組みたいこと (28年度)	連携・協働したることができること (28年度)	取組状況	今取り組んでいること (28年度)	今後取り組みたいこと (29年度)	連携・協働したることができること (29年度)	取組状況
3. 地域生活を支えるサービスや活動を充実します	<p>3-1) 福祉サービスの充実 *地域で自立して生活できるよう、多様なニーズに応える質の高い福祉サービスを提供します。 <キーワード> ・分野別計画に基づいて推進する ・エンパワメント(その人の力を引き出す)を支援する ・自己評価・第三者評価を推進する <重点的に進める取組> ・各分野別の地域福祉の視点で推進します</p>	特になし	特になし	特になし		特になし	特になし	特になし	
	<p>3-2) 地域福祉活動の推進 *さまざまなニーズにきめ細かく応える多様な地域福祉活動をすすめるよう、一人ひとりが「できること」で参加し、多彩な人々に呼びかけて広げます。 <キーワード> ・分野別計画に基づいて推進する ・地域での”ちょっとした支えあい”を広げる ・さまざまな”困りごと”に解決策を考える ・先駆的な活動の事業化を進める ・福祉の仕事への関心を高める、就業環境を改善する <重点的に進める取組> ・担い手の意識やスキルを高める取組を充実する</p>	ロービジョンサポートフェアin芦屋において、当日の手伝いを行い、団体の活動の支援を行った。	必要とされる団体への支援を行いたい。	「支援を求める人」と、既存団体、ボランティア等を結びつけられるよう活動する。	◎	・みどり地域生活支援センターの夏祭り当日の手伝い、身障協会主催の「健チャラin芦屋」のイベントのポスター張り、当日の手伝いなど、団体の活動の支援を行った。 ・ボランティア団体からの小学校・警察学校での福祉学習の人的支援も行った。	必要とされる団体への支援を行いたい。	「支援を求める人」と、既存団体、ボランティア等を結びつけられるよう活動する。	◎
	<p>3-3) 多様な連携による支援 *新たなニーズや困難な課題が起きたときはみんなで集まって話しあい、力をあわせて取り組みます。 <キーワード> ・コミュニティソーシャルワーク(地域を基盤とした社会福祉の援助)の機能を充実する ・他職種が連携する ・「Joint-Sheet」等を活用した連携を充実する ・共生型のサービスを増やす ・「社会福祉複合施設」を活用する ・新たな”困りごと”に対応する <重点的に進める取組> ・“複雑な困りごと”の解決に向けた取組を充実します</p>	支援が必要な団体等から要請を受けて、既存団体と「ひとり一役」等とのマッチングを行った。(ベンチ設置の相談を受けた2件)	継続	「支援を求める人」と、既存団体、ボランティア等を結びつけられるよう活動する。	○	支援が必要な団体等から要請を受けて、既存団体と「ひとり一役」等とのマッチングを行った。(ベンチ設置の相談を受けた2件)	継続	「支援を求める人」と、既存団体、ボランティア等を結びつけられるよう活動する。	○
4. 権利をまもる取組を充実します	<p>4-1) 権利擁護の意識づくり *お互いのニーズを理解し、権利を尊重して生活する意識を高めます。 <キーワード> ・「権利」を自分のこと(してほしいこと、してほしくないこと)こととして考える ・一人ひとりの多様性を大切にする ・身近な地域での権利擁護支援を推進する</p>	地域福祉アクションプログラム推進協議会から連携した外部組織として、プロボノセンターが立ち上がった。	連携して取り組む。	相談者をつなげる。	○	地域福祉アクションプログラム推進協議会から連携した外部組織として、プロボノセンターを立ち上げ、毎月「地域カフェ」やマンシヨン管理セミナーを実施	悩んでいる人の相談を受けられる人の登録を開始、マッチングできる体制を作る。	相談者をつなげる。	◎
	<p>4-2) 権利侵害・虐待対応の充実 *権利侵害や虐待を予防するための支援と迅速・的確な対応を、地域の力をあわせてすすめます。 <キーワード> ・弱い立場になりがちな人の暮らし”困りごと”を支える ・障がいのある人などへの「合理的配慮」(場面に応じた調整など)を理解し、進める ・専門職団体等と連携する</p>	特になし	特になし	特になし		特になし	特になし	特になし	
	<p>4-3) 後見的支援の充実 *判断能力が不十分な人が自立した生活ができるよう、支援します。 <キーワード> ・市民後見人、法定後見機関等を増やす ・可能な限り本人が意思決定できるように支援する</p>	特になし	特になし	特になし		特になし	特になし	特になし	

第2次芦屋市地域福祉計画の実施プラン票

団体名 地域福祉アクションプログラム推進協議会

◎=よくできている
○=できている
△=もう少し

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること (27年度)	今後取り組みたいこと (28年度)	連携・協働したらできること (28年度)	取組状況	今取り組んでいること (28年度)	今後取り組みたいこと (29年度)	連携・協働したらできること (29年度)	取組状況
5 人とのつながりを広げます	5-1) 地域でのつながりづくり *あいさつや交流を積極的に行い、困ったときにはたすけあえるつながりと“絆”を広げます。 *地域で支えあうために必要な個人情報の共有について、話し合いをすすめます。 <キーワード> ・自治会、町内会の活動を支援する、参加を呼びかける ・マンション等でも取り組む ・多様な世代や属性の人が交流する、ゆるやかにつながる ・ひとりぼっちをつくらない ・”誰かとどこかで”つながる ・つなぎ役やファシリテーター（おせっかい）を増やす ・地域の課題を地域で解決する ・福祉への関心と活動を活かした「福祉でまちづくり」をすすめる	茶屋之町自治会主催の「茶屋秋まつり」では地域福祉アクションプログラム推進協議会での活動の展示や缶バッジづくりを通して、地域でのつながりを深めた。また、缶バッジにより得た利益は「ロービジョンサポートフェアin芦屋」の運営支援として寄附した。	地域で行事等に参加し、地域の方との交流を通して、地域づくりに結びつくような取組を行う。	地域の方との連携をより深める取組を継続する。	◎	茶屋之町自治会主催の「茶屋秋まつり」では行政職員構成のグローアップチーム・創生ワーキングチームと協働し、豆つかみゲームを中心に缶バッジ、キッズスペースで地域でのつながりを深めた。また、情報誌などを配布しPRする。	地域で行事等に参加し、地域の方との交流を通して、地域づくりに結びつくような取組を行う。	地域の方との連携をより深める取組を継続する。	◎
6 安心・安全でバリアのない生活環境をつくりまします	6-1) 災害時の支援 *災害時にだれもが安全に避難できるよう、日頃から準備をすすめます。 <キーワード> ・いざというときのためのつながりをつくる ・情報の伝達、安否確認の仕組みをつくる 多様なニーズに対応できる避難所（地域の避難所、福祉避難所）を確保する ・平常時からの取組を進める	キラッとプロジェクトで作成した「減災リーフレット いのちまもるあしや」の配布を積極的に行い（約15,000部）、災害時の自助・共助の意識の浸透を図った。	継続	防災関連部署等と連携して、普及・啓発を継続する。	◎	・キラッとプロジェクトで作成した「減災リーフレット いのちまもるあしや」の配布を積極的に行い（約5,000部）、災害時の自助・共助の意識の浸透を図った。 ・日常生活の中でもしものことがあったときに役立てていただくための「いのちまもるわたしノート」を作成。	・「減災リーフレット」の配布は継続。 ・「わたしノート」も同様に配布していく。	防災関連部署等と連携して、普及・啓発を継続する。	◎
	6-2) バリアフリーのまちづくり *だれもが安心して快適に外出し、社会参加ができる環境をつくりまします。 <キーワード> ・公共交通や移送サービスを充実する ・バリアフリーの情報を発信する ・出前型のサービスなどの推進	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし
	6-3) 防犯・交通安全の推進 *犯罪や事故のない安全なまちを、地域の力をあわせてつくりまします。 <キーワード> ・気づいた人が声をかける	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし
	6-4) 住環境の充実 *犯罪や事故のない安全なまちを、地域の力をあわせてつくりまします。 <キーワード> ・ニーズに応じて計画的に整備する	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし

第2次芦屋市地域福祉計画の実施プラン票

〔団体名 地域福祉アクションプログラム推進協議会〕

◎=よくできている
○=できている
△=もう少し

推進目標	取組の柱と協働して取り組む方向	今取り組んでいること(27年度)	今後取り組みたいこと(28年度)	連携・協働したらできること(28年度)	取組状況	今取り組んでいること(28年度)	今後取り組みたいこと(29年度)	連携・協働したらできること(29年度)	取組状況
7. 地域福祉の活動を支えるしくみを充実します	<p>7-1) 活動拠点の充実 *地域の多様な資源を活かして、利用しやすい活動拠点を増やします。 <キーワード> ・地域内外の資源を有効に活用する ・社会貢献を進める <重点的に進める取組> 身近な「つながりの拠点」づくりを進めます</p>	特になし	特になし	特になし		特になし	特になし	特になし	
	<p>7-2) 活動財源の確保 *地域福祉活動への参加としての“寄附文化”を広げながら、多様な方法で活動の財源を生み出します。 <キーワード> ・寄附文化を広げる ・目的に応じた寄附の呼びかけや仕組みづくりを進める</p>	特になし	特になし	特になし		特になし	特になし	特になし	
	<p>7-3) 活動への支援 *“楽しく”, “しっかり”活動できるよう支援するしくみと取組を充実します。 <キーワード> ・楽しく気軽にできる活動を増やす ・有償の活動やコミュニティビジネスを進める ・仕事などの経験、能力を活かした活動を進める ・新たな活動やグループづくりを支援する ・コミュニティワーク(地域福祉活動支援)を充実する <重点的に進める取組> ・「ひとり一役運動」を推進し、気軽に参加できる機会を増やします ・健康づくりや生きがいづくりの活動を進めます</p>	特になし	特になし	特になし		特になし	特になし	特になし	
	<p>7-4) 協働活動・事業の推進 *“公と民”, “民と民”の多様な協働で、具体的な活動や事業をすすめます。 <キーワード> ・地域間で連携する ・NPOや事業者等との連携を推進する ・公民協働、市民と専門職等の協働による活動、事業を推進する ・行政内の協働、連携を推進する ・地域福祉推進計画との連動する</p>	特になし	特になし	特になし		<p>第3次芦屋市地域福祉計画策定にかかる検討部会や芦屋市職員構成の創生ワーキングチームとの協働で「きて・みて・やってみてinあしや」をダイエー芦屋浜店、コープデイズ芦屋の協力を得て実施、豆つかみゲームやキッズスペース、喫茶コーナーなどで市民とのふれあいを図る。(11/20, 3/12開催)</p>	<p>今求められているテーマを探し、より参加しやすい企画を考える。</p>	<p>行政との協力体制構築。商業施設とのコラボ</p>	◎
	<p>7-5) ネットワークの充実 *地域のさまざまな人々が出会い、協議し協働するしくみを充実します。 <キーワード> ・地域福祉計画を周知する ・各々の「実施プラン」を持ち寄り、共有する <重点的に進める取組> 「地域発信型ネットワーク」を充実します</p>	特になし	特になし	特になし		特になし	特になし	特になし	